

なごみの郷の理念

なごみの郷は、「地域で普通の生活をしつつ、未来に向かって希望の道を歩むこと」を大きな目標とします。

その目標を達成するために、なごみの郷はその名の由来通り「人の輪と心が和む場」を大切にし、「一人一人が夢と希望を持って生きること」を目指して、医療・行政機関等との緊密な連携のもとに、「絶えず創意工夫を積み重ね、最善を尽くすこと」を信条とします。

基本方針

- 1 人の輪、こころの和を大切にしたサービスに努めます。
- 2 一人一人の権利と尊厳を守り、個人の自律及び自立を尊重することに努めます。
- 3 利用者、家族、ボランティア、地域住民と一体となって推し進めます。

なごみの郷主要施設



なごみの郷本館



グループホームしらさぎ



地域活動センターくろゆり



能美地域活動センターはまかぜ



能美地域活動センターはまかぜ
山口分場

一人ひとりが主人公の地域共生社会づくり



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、現在も変異して第7波に入り国内で日に20万人を超えることもあります。なごみの郷でも「3密(密閉、密集、密接)」を避け、手洗い、マスクの着用、施設利用の職員をはじめ、利用者等の体温測定(37度以上ないこと)、常に施設のアルコール消毒を心がけ、各所に消毒液を設置してあります。また、当法人職員連絡会では、感染を防ぐための健康教育の指導、周知に務めています。

恒例になっている「なごみの祭」は、規模を縮小して開催できないかとメンボラ ToMo の会、家族会くろゆり、自助グループ青葉会と共に準備をしています。早い終息を祈るばかりです。

設立しての20周年記念誌の発行も人材育成と20年の温故知新から調査研究し、この地の使命を受けて持続可能な地域共生社会づくりの羅針盤にしたいと思っています。

国の動きとしては、「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律」があります。第4条(地域福祉の推進)は、「地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら、参加し、共生する地域社会の実現を目指して行われなければならない。」とあります。

また、今年度、能美市より生活困窮者就労準備支援等事業(のみワークポートリンク)の委託を受けて事業を拡げています。

なごみの郷は、基本方針に、「利用者、家族、ボランティア、地域住民が一体になって推し進めます」とあります。安心、安全の住み慣れた地域で一人ひとりが主人公になって、自分らしく生きていくことのできる地域共生社会(自助・互助・共助・公助)の実現のために一翼を担っていきたいと思います。

今後とも地域の皆様をはじめ行政や関係機関の方々のより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます

令和4年8月

社会福祉法人なごみの郷
理事長 荒田 稔

目 次

| | | |
|----|---|----|
| I | 法人の概要 | 1 |
| 1 | 法人の沿革 | 1 |
| 2 | 施設の規模 | 2 |
| 3 | 組織・機構 | 3 |
| 4 | 関係団体の動き | 4 |
| 5 | 職員体制 | 5 |
| 6 | 令和2年度 特記事項 | 6 |
| II | 支援部 | 7 |
| | 《就労継続支援B型事業》就労支援センターつばさ | 7 |
| 1 | 事業の概要 | 7 |
| 2 | 事業実績 | 7 |
| 3 | 行事等の年間活動 | 8 |
| 4 | 就労支援 | 9 |
| 5 | 作業の概要 | 9 |
| | 《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》能美地域活動センターはまかぜ | 14 |
| 1 | 事業の概要 | 14 |
| 2 | 事業実績 | 15 |
| | 《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》能美地域活動センターはまかぜ山口分場 | 21 |
| 1 | 事業の概要 | 21 |
| 2 | 事業実績 | 22 |
| | 《共同生活援助事業（介護サービス包括型）》グループホームなごみ・しらさぎ | 26 |
| 1 | 事業の概要 | 26 |
| 2 | 年代別利用者内訳 | 26 |
| 3 | 利用状況 | 26 |
| 4 | 主な日中の生活の場 | 27 |
| 5 | 利用者支援等 | 27 |
| 6 | 令和3年度の動向 | 29 |
| | 《相談支援事業》相談支援センターなごみ・相談支援センターはまかぜ | 30 |
| 1 | 事業の概要 | 30 |
| 2 | 事業の実施期間 | 30 |
| 3 | 事業内容 | 30 |

| | |
|------------------------------------|-----|
| 《生活介護事業、地域活動支援事業》地域活動センターくろゆり..... | 3 4 |
| 1 事業の概要 | 3 4 |
| 2 事業利用状況 | 3 5 |
| 3 事業活動内容 | 3 6 |
| 《地域交流推進事業》 | 3 8 |
| なごみ祭り・春の日の食談会中止..... | 4 0 |
| Ⅲ 令和3年度の決算状況..... | 4 1 |
| 1 資金収支計算書 | 4 1 |
| 2 事業活動計算書 | 4 2 |
| 3 貸借対照表 | 4 3 |
| Ⅳ その他..... | 4 4 |
| 1 法人内研修 | 4 4 |
| 2 研修・各種団体会議への出席..... | 4 4 |
| 3 関連団体への参加 | 4 5 |
| 4 令和3年度公立小松大学実習概要..... | 4 6 |
| 5 なごみの郷苦情解決第三者委員..... | 4 7 |

I 法人の概要

1 法人の沿革

| 年 | 月 | 摘 要 |
|-------|----|---|
| 平成 10 | 12 | 「社会福祉法人なごみの郷」設立発起人会発足 |
| 11 | 8 | 社会福祉法人なごみの郷設立 初代理事長 廣川 俊雄氏 就任 |
| 12 | 4 | なごみの郷本館新築 精神障害者社会復帰施設「地域生活支援センターなごみ」 「福祉ホームなごみ」「通所授産施設つばさ」開設 |
| 13 | 3 | 二代目理事長 西出 外次 氏 就任 |
| 14 | 4 | 精神障害者「グループホーム弥生荘」開設 |
| | 10 | ホームヘルプサービス事業開始 |
| 15 | 4 | なごみの郷敷地内にしらさぎ館新築 精神障害者「グループホームしらさぎ」「地域交流センターしらさぎ」 小規模通所授産施設「フレンズくろゆり」開設 レスパイトケア事業・精神障害者地域生活サポート事業開始 |
| | 8 | 三代目理事長 木村 正行 氏 就任 |
| 18 | 10 | 「福祉ホームなごみ」より障害福祉サービス事業「ケアホームなごみ」 に事業変更・経過的地域生活支援センター事業（小松市委託）開始 「地域生活支援センターなごみ」より 相談支援事業（小松市委託）に事業変更 |
| 19 | 3 | 相談支援事業（小松市委託）廃止 |
| | 4 | 「地域活動支援センターくろゆり」「相談支援センターなごみ」 「ホームヘルプステーションなごみ」開設 「通所授産施設つばさ」より「就労支援センターつばさ」に事業変更 |
| | 5 | 「グループホームしらさぎ」より「グループホームケアホームしらさぎ」 に事業変更 |
| 20 | 11 | 「地域活動支援センターくろゆり」より「地域活動センターくろゆり」 に事業変更・「相談支援センターなごみ」増築 |
| | 12 | 「地域活動センターくろゆり」改築 |
| 21 | 8 | 四代目理事長 水腰 久美子 氏 就任 |
| | 10 | 法人設立 10 周年記念式典開催 |
| 22 | 4 | 「グループホームケアホームしらさぎ」より「ケアホームしらさぎ」 に事業変更 |
| | 8 | 五代目理事長 小杉 修 氏 就任 |
| 24 | 3 | 「能美地域活動センターはまかぜ」を就労支援センターつばさの サテライト事業所として開設 |
| | 8 | 六代目理事長 荒田 稔 就任 |
| 25 | 4 | 「能美地域活動センターはまかぜ」を就労継続支援（B型）事業と地域 活動センターとして開業 |

| | | |
|------|----|---|
| | 8 | 「相談支援センターはまかぜ」を能美地域活動センターはまかぜ内に開設 |
| 26 | 4 | 「ケアホームなごみ」「ケアホームしらさぎ」を「グループホームなごみ」「グループホームしらさぎ」に事業変更 |
| 30 | 4 | 「地域活動センターくろゆり」自立(生活)訓練事業を休止 |
| | 11 | 「ホームヘルプステーションなごみ」居宅介護事業を休止 |
| 令和 1 | 8 | 「能美地域活動センターはまかぜ山口分場」を能美地域活動センターはまかぜのサテライト事業所として開設 相談事業所「相談支援センターはまかぜ」を山口分場内に移転 |
| 2 | 4 | 「能美地域活動センターはまかぜ山口分場」を就労継続支援 (B 型) 事業所と地域活動センターとして開業 |
| | 8 | 「グループホーム弥生荘」共同生活援助事業を廃止 |
| | 11 | 地域活動センターくろゆりの自立 (生活) 訓練事業を廃止 |
| 3 | 7 | 「相談支援センターはまかぜ」で自立生活援助事業を開業 |

2 施設の規模

| | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 社会福祉法人なごみの郷 | 〒923-0851 小松市北浅井町り 123 番地 |
| ・敷地面積 | 2,415.00 m ² |
| ・建物 3 棟総床面積 (構造・面積 木造一部 2 階建て) | 1,017.24 m ² |
| グループホームなごみ | 306.19 m ² |
| 就労支援センターつばさ | 348.85 m ² |
| 相談支援センターなごみ・ホームヘルプステーションなごみ他 | 160.83 m ² |
| グループホームしらさぎ | 89.43 m ² |
| 地域交流センターしらさぎ | 104.34 m ² |
| ポンせん加工室 | 24.00 m ² |
| 地域活動センターくろゆり | 〒923-0863 小松市不動島町甲 22 番地 |
| ・敷地面積 (甲 21 番地 駐車場含む) | 339.59 m ² |
| ・建物床面積 (構造・面積 木造 2 階建て) | 211.89 m ² |
| 能美地域活動センターはまかぜ | 〒929-0105 能美市中ノ江町と 104-1 番地 |
| ・敷地面積 | 1,817.50 m ² |
| ・建物床面積 (構造・面積 鉄筋コンクリート 1 階建て) | 389.18 m ² |
| 倉庫 | 32.17 m ² |
| 能美地域活動センターはまかぜ山口分場 | 〒929-0126 能美市山口町ホ 17-1 番地 |
| ・敷地面積 | 2,311.87 m ² |
| ・建物床面積 (構造・面積 鉄筋コンクリート 1 階建て) | 519.00 m ² |
| 機械室他 | 113.78 m ² |

3 組織・機構

(1) 令和3年度法人の役員等名簿（令和4年4月1日現在）

役員

| | | |
|-----------|-----------|----------|
| 理事長 荒田 稔 | 理事 北岡 和代 | 理事 宮吉 正明 |
| 理事 三上 紀美恵 | 理事 村中 豊 | 理事 高田 茂 |
| 監事 千田 純一 | 監事 川畑 真智子 | — |

以上理事6人監事2人

(2) 顧問

| | | |
|--------|-------|---|
| 水腰 久美子 | 木崎 馨山 | — |
|--------|-------|---|

以上2人

(3) 評議員選任解任委員

| | | |
|-------------|------------|------------|
| 監事委員 川畑 真智子 | 外部委員 細川 勝正 | 外部委員 新谷千代子 |
| 外部委員 高見 京子 | 事務局委員 瀬戸俊文 | — |

以上5人

(4) 評議員

| | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| 中島 捷純 | 岡田 和昌 | 鈴木 淑 | 川田 彩奈 |
| 樫村 優紀世 | 中村 良正 | 坂田 恵子 | — |

以上7人

(5) 苦情受付

| | | |
|-----------|-------|-------|
| 苦情解決第三者委員 | 北岡 和代 | 井村 千里 |
|-----------|-------|-------|

| | | | |
|---------|------|---------|------|
| 苦情解決責任者 | 村中 豊 | 苦情受付担当者 | 高田 茂 |
|---------|------|---------|------|

4 関係団体の動き

| 年度 | 摘 要 |
|-------|--|
| 昭和 48 | 小松保健所（現南加賀保健福祉センター）管内精神障害者家族会「くろゆり会」発足 |
| 63 | 小松市不動島町に小規模作業所「くろゆり作業所」開設 |
| 平成 5 | ボランティアグループ「くろゆり作業所を支える会」発足 |
| 6 | 小松保健所のメンタルヘルスボランティア講座始まる。 ボランティアグループ「メンタルフレンズつばさ会」発足 小松市末広町に第2作業所「ワークハウスつばさ」開設 |
| 7 | 小松能美こころの街づくり推進協議会開催 ボランティアグループ「みのり会」発足 |
| 8 | 「ワークハウスつばさ」小松市小馬出町に移転 ボランティアグループ「こだま会」発足 |

| | |
|------|---|
| 9 | 「小松能美精神障害者社会復帰施設法人設立準備の会」発足 |
| 10 | ボランティアグループ「ハーモニー」発足 |
| 11 | ボランティアグループ「ののはな」発足 |
| 12 | 小松能美メンタルヘルスボランティア連絡協議会発足 |
| 14 | ボランティアグループ「かよう会」発足 |
| 15 | ボランティアグループ「のぞみの会」発足 |
| 16 | メンタルヘルスボランティア8グループを統一して、「小松能美メンタルヘルスボランティア友の会」として発足 |
| 令和 2 | 「小松能美メンタルヘルスボランティア友の会」を「メンボラ ToMo の会」に改名する。 |

職員体制

令和4年4月1日現在

| 所属及び職名 | | 氏名 | 備考 | 福祉関係有資格 |
|------------------|---------------|---------------|------------------------------------|-----------------------------|
| 理事長 | | 荒田 稔 | | 精神保健福祉士 |
| 所長(施設長) | | 村中 豊 | | 社会福祉施設長 |
| 部長(管理者) | | 高田 茂 | | 精神保健福祉士・社会福祉士 |
| 次長(管理者) | | 瀬戸 俊文 | | 精神保健福祉士・社会福祉士 |
| 次長(管理者) | | 堂前 美春 | | 精神保健福祉士 |
| 次長(管理者) | | 中村 有紀 | | 精神保健福祉士・保育士 |
| 法人本部 | 管理者 | 瀬戸 俊文 | 兼 GHなごみ・しらすぎ管理者兼サービス管理責任者 | 精神保健福祉士・社会福祉士 |
| | 給付費請求・勤怠事務他 | 鈴木 栄子 | | |
| | 経理事務 | 武田 春江 | 兼 GHなごみ・しらすぎ | |
| 就労支援センターつばさ | 管理者 | 中村 有紀 | 兼 相談なごみ管理者、GH生活支援員 | 精神保健福祉士・保育士 |
| | 就労継続支援B型 | サービス管理責任者 | 金谷 葉月 | 公認心理師・精神保健福祉士・社会福祉士 |
| | | 生活支援員 | 北島 千裕 | 精神保健福祉士・社会福祉士 |
| | | 目標工賃達成指導員 | 西東 健太 | |
| | 職業指導員 | 山田 紗貴 | | 管理栄養士 |
| | | 酒井 真由美 | 兼 GHなごみ・しらすぎ | |
| | | 泉 律子 | | |
| 奥村 恭子 | | | | |
| 八田 竜一 | | | | |
| なごみ・しらすぎグループホーム | 管理者兼サービス管理責任者 | 瀬戸 俊文 | 兼 法人本部管理者 | 精神保健福祉士・社会福祉士 |
| | 生活支援員 | 番 千恵子 | | 栄養士 |
| | | 中村 有紀 | 兼 つばさ、相談なごみ管理者 | 精神保健福祉士・保育士 |
| | | 酒井 真由美 | 兼 就労支援センターつばさ | |
| | 世話人 | 富樫 尚子 | | 介護福祉士 |
| | | 中山 裕子 | | |
| | | 村中 豊 | | |
| | 世話人(遅番専属) | 武田 春江 | 兼 法人本部 | |
| | | 打越 賢一 | | |
| | | 近藤 悠 | 派遣 | 17:00~20:30 交代勤務(日曜~土曜) |
| | | 小松市シルバー人材センター | | |
| 以下の3事業所 管理者 | | 高田 茂 | | 精神保健福祉士・社会福祉士 |
| くろゆり地域活動センター | 生活介護 | サービス管理責任者 | 松本 里絵 | 精神保健福祉士 |
| | | 生活支援員 | 大杉 美佐子 | |
| | | 三宅 奈津子 | | |
| | | 吉田 裕美子 | | 看護師 |
| | 嘱託医 | 医療法人社団愛康会 | 小松ソフィア病院 | |
| 地域活動支援センター | | 生活介護事業と兼務 | | |
| はまかぜ能美地域活動センター | 就労継続B型 | サービス管理責任者 | 山口 充子 | 介護福祉士・保育士 |
| | | 生活支援員 | 小島 優衣 | 社会福祉士 |
| | | 目標工賃達成指導員 | 南出 真里江 | 介護福祉士 |
| | | 職業指導員 | 藤岡 哲哉 | |
| | 石井 康子 | | 介護支援専門員・介護福祉士 | |
| 地域活動支援センター | | 就労継続B型事業と兼務 | | |
| はまかぜ能美地域活動センター | 就労継続B型 | サービス管理責任者 | 江端 安代 | 介護福祉士 |
| | | 生活支援員 | 海老原 綾 | 社会福祉士 |
| | | 目標工賃達成指導員 | 前出 真 | 精神保健福祉士・社会福祉士 |
| | | 職業指導員 | 前田 信夫 | |
| | | — | | |
| — | | | | |
| 相談支援センターなごみ | 管理者 | 中村 有紀 | 兼 つばさ管理者、GH生活支援員 | 精神保健福祉士・保育士 |
| | 相談支援専門員 | 宇野 結貴 | | 精神保健福祉士・社会福祉士・介護支援専門員 |
| | | 中西 雅恵 | | 主任介護支援専門員・介護福祉士 |
| 相談支援センターはまかぜ | 管理者 | 堂前 美春 | 兼 主任相談支援専門員 兼 自立生活援助事業サービス管理責任者 | 精神保健福祉士 |
| | 相談支援専門員 | 土山 信英 | 兼 自立生活援助事業 地域生活支援員 | 社会福祉士・介護支援専門員 |
| | | 西本 美由紀 | | 精神保健福祉士・社会福祉士・介護支援専門員・介護福祉士 |
| | | 土山 信英 | 兼 相談支援専門員 | 社会福祉士・介護支援専門員 |
| 自立生活援助事業 地域生活支援員 | | 土山 信英 | 兼 相談支援専門員 | 社会福祉士・介護支援専門員 |

令和3年度 特記事項

固定資産の取得

- 施設整備
 - 5月 山口分場女子トイレの増設 1,210,000円

- 機械器具
 - 5月 GHなごみ居室エアコン 148,500円
 - 6月 ビジネスコードレスフォン 104,500円
 - 1月 つばさ業務用パソコン 104,500円
 - 3月 はまかぜ印刷室エアコン 484,000円
 - くろゆり作業室エアコン 154,000円

- その他
 - 12月 ほほえみ基金（北國新聞社） 50,000円
 - グループホームなごみ・しらさぎへ寄付金

以上

II 支援部

《就労継続支援B型事業》 就労支援センターつばさ

1 事業の概要

就労支援センターつばさは令和2年4月より就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援B型事業所（定員20人）として新たなスタートを切った。培った就労支援スキルと各関係機関との繋がりのもと、一般就労を目指す方への支援を継続的に行った。今後も心身面の変化における知識の習得と関係機関との密な連携のもと、ストレングスを意識した作業提供・就労支援に努める。

(サービス内容) 心身面で一般就労が難しい方や、一般就労の経験はあるが体力や年齢から企業等に雇用されるのが困難な方、一定年齢に達している方に対し、通所により就労や生産活動の機会を提供する。
また、一般就労に必要な知識、能力が高まった利用者を次のステップに向けて支援する。

(定員) 20人

(利用料) 590円/日（個人の所得によって上限がある）

(サービス提供日時) 毎週月～金曜日（午前8時30分～午後5時まで）
販売会、行事等により土・日・祝日有り

(利用期間) なし

(作業内容) 菓子製造、喫茶、厨房、委託事業（エコステーション管理等）

(その他) 昼食・送迎サービス

2 事業実績

(1) 登録者の推移

①人数

単位：人

| 利用月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|-----------------|----|----|----|----|----|----|
| 就労継続（B型）（定員20人） | 30 | 32 | 33 | 33 | 33 | 33 |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 年度平均 | 前年度 |
|-----|-----|-----|----|----|----|-----|------|------|
| 32 | 32 | 32 | 34 | 33 | 34 | 391 | 32.5 | 30.9 |

②市町村登録者数

単位：人

| 市町村名 | 小松市 | 能美市 | 加賀市 | 福井市 | 計 |
|------|-----|-----|-----|-----|------|
| 延人数 | 343 | 24 | 12 | 12 | 391 |
| 構成比率 | 88% | 6% | 3% | 3% | 100% |

③年代別登録者数（令和4年3月31日現在）

単位：人

| 年齢 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代～ | 計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|
| 男性 | 0 | 7 | 1 | 3 | 3 | 3 | 17 |
| 女性 | 0 | 3 | 5 | 3 | 5 | 1 | 17 |
| 計 | 0 | 10 | 6 | 6 | 8 | 4 | 34 |

(2) 延利用者・利用率の推移

①就労継続支援（B型）事業

| 開所月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 延利用者（人） | 374 | 343 | 404 | 377 | 352 | 331 |
| 開所日数（日） | 21 | 21 | 23 | 22 | 21 | 21 |
| 稼働率 | 89.0% | 81.7% | 87.8% | 85.7% | 83.8% | 78.8% |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 月平均 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 375 | 364 | 366 | 300 | 305 | 387 | 4,278 | 356.5 |
| 22 | 21 | 22 | 19 | 18 | 22 | 253 | 21.1 |
| 85.2% | 86.7% | 83.2% | 75.0% | 84.7% | 88.0% | 84.2% | |

(3) 平均工賃の推移

①就労継続支援（B型）事業

単位：円

| 支給月 | 4月 | 5月 | 6月 | 特別賞与 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総支給額 | 209,227 | 189,071 | 211,225 | 207,300 | 198,269 | 162,372 | 166,091 | 197,276 |
| 平均工賃 | 8,369 | 7,003 | 7,041 | 7,148 | 7,081 | 5,599 | 5,599 | 6,364 |

| 11月 | 12月 | 年末賞与 | 1月 | 2月 | 3月 | 年度末賞与 | 計 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 186,104 | 186,961 | 349,200 | 155,967 | 165,696 | 194,727 | 384,200 | 3,163,686 |
| 6,203 | 6,232 | 11,265 | 5,031 | 5,918 | 6,715 | 11,300 | 7,120 |

令和3年度は14件の問い合わせがあり、見学・体験を経て新規登録された方は7人であった。また、引っ越し2人、事業所変更1人、入院による退所が1人あった。今年度も登録者数は増えたが、COVID-19拡大防止の為、イベント・販売会が開催されず、年間を通しての利用延べ人数及び工賃は例年より減少した。ただ、昨年と比べると稼働率及び工賃総支給額が増加しており、年間を通してみると安定した利用者が多かった。

令和4年度は、コロナ禍でも行える新たな形の販売方法を確立し、自主製品の販路拡大に努め、安全に作業を提供し続けられるよう努める。また、調査研究時に行った就労支援センターつばさ利用者へのアンケート結果を元に、工賃支給額UPの為の取り組みの他、居場所・居心地の良さを感じることで、安心して次のステップにチャレンジできるような環境（人・場所）作りに努める。
(文責：中村)

3 行事等の年間活動

生活のリズムを整え、気分転換と交流の機会をもち、社会性の幅を広げることを目的として活動している。今年度はCOVID-19感染予防を徹底し、食事の持ち帰りや手指消毒や換気、三密を避けるなど予防を徹底して行事を行った。

単位：人

| 開催月 | 活動内容 | 参加人数 | 開催場所 |
|-----|-------------------------|------|-------|
| 4月 | 花見 | 9 | 芦城公園 |
| 5月 | ニュースポーツ | 5 | なごみの郷 |
| 5月 | 映画鑑賞会 | 6 | |
| 8月 | 夏を楽しもう！（スイカ割り） | 6 | |
| 11月 | 器絵付け体験 | 10 | |
| 12月 | コマニープラスバントブルリアンオンライン演奏会 | 4 | |
| | 忘年会 | 8 | |
| 2月 | 映画鑑賞会 | 3 | |
| 3月 | 防災クイズ | 13 | |

4 就労支援

令和3年度は、障害者職業センター、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、相談支援専門員、ご家族、行政・医療機関等と連携をとり計3人の就労支援を行った。就労支援特別プログラムは、ハローワーク同行、個別SST（社会生活技能訓練）、職場見学を行った。また、就労準備として（株）リクルートのKnowbeソフトを活用しながら、ビジネスマナーや面接練習、履歴書の書き方などを個別SSTで行い、就労準備性を高めていった。就労後の支援としては、障害者就業・生活支援センターのジョブコーチと連携しながら定着支援を行っている。

就労支援職員は、南加賀就労支援強化連絡会就労支援勉強会、障害者雇用連絡会議、就労支援に関わる研修等の参加を通して情報交換を行い知識の向上に努めた。

（令和4年度に向けて）

就労支援プログラムに関して、チャレンジワークなどで職場体験を行い、就労模擬体験の個別支援や、グループSSTをしながら一般就労に向けて支援していく。また、一般就職希望だが、まだ体力に自信がない、症状が安定していない利用者にも他機関と連携しながら就職支援を行っていく。そして障害者就業・生活支援センター、ハローワーク等と連携し、求人探しから、面接、就職、そしてその後安定した勤務として定着するよう支援する。

（文責：金谷）

5 作業の概要

菓子製造販売部門

（令和3年度の主な動き）

- ・コマニー株式会社、自動車総連・日野労連ジェイ・バス労働組合等の企業様の社員の方に向けた、注文販売やイベント用として注文販売を行う事が出来るよう話し合いを重ね、販路拡大につながるようアプローチを行う事が出来た。小松市役所観光物産ネットワーク課と連携し、航空プラザの売店にいがしを委託販売出来ないかアプローチを続けている。小松市の子ども食堂を運営している支援団体「マザーズ」よりイベントで使用する「TASUKE愛BAG」にいがしを利用して頂く事が出来た。

<常設販売>

| 販売場所 | 販売商品 |
|-------------------------------------|----------------------------|
| 安宅ビューテラス、空の駅こまつ ぶっさんや | 加賀いりがしセット、いりがし各種 弁慶ぼんせん |
| 夢や、平和堂小松店、JAあぐり 道の駅こまつ木場潟、JAグリーン | いりがし、ぼんせん各種 |
| 小松市社会福祉協議会 | いりがし、ぼんせん各種 |

<注文販売>

企業・団体 5件：65,100円

| 企業・団体名 | 企業・団体名 |
|------------|--------------|
| あんずの木 | マザーズ |
| 小松市社会福祉協議会 | メンボラ ToMo の会 |
| 自治労石川県本部 | |

<企画販売>

6月～11月 いりがし注文販売

(いりがし、ぼんせんべい、菓子セット)

企業・団体注文 2件：132,760円

1月～3月 雛いりがし等 注文 (いりがし、ぼんせんべい、菓子セット)

個人、企業・団体：9件：22,470円

※COVID-19の感染者が小松市・能美市の保育園等からも出た事もあり、電話での営業活動しかできず、保育園等からの注文が減り、注文数が激減した。

(令和4年度に向けて)

昨年に引き続き COVID-19 が全国的に蔓延している為、殆どのイベントが中止となり、いりがしの売上が伸び悩む事で利用者の作業が少なくなっている。商工会議所等からアドバイスを頂きながら利用者と話し合い販路拡大をしていきたい。

(文責：西東)

ダイニング部門

・喫茶

(令和3年度の主な動き)

COVID-19の感染予防のため、外部のお客様のご利用を控え、金銭の受け渡しなどはトレーで行うなど対策をしっかりと行い営業した。喫茶内では、利用者や職員向けに季節のデザートや紅茶プリンやコーヒープリンと様々な味のプリンを提供し通常通りに続けることができた。

シフォンケーキは、今年度から新たに能美市社会福祉協議会への納品を始めた。また小松市内の児童クラブや病院、個人注文の外部注文と、くろゆりやはまかぜ、はまかぜ山口分場の月1回の注文により、火曜と木曜の定期的な製造・袋詰め作業の他、新たに月曜日にも製造、袋詰め作業を行い作業回数を増やすことができた。

(令和4年度に向けて)

令和4年度は、シフォンケーキ製造、販売について、新たにバニラ味を販売していく。喫茶の営業に関しては、引き続き COVID-19 の予防対策も含め、安定して作業に従事できるように利用者をサポートし現状を維持する。

(文責：北島)

・給食配食弁当部門

(令和3年度の主な動き)

一般注文において特に地域間の繋がりが広がったこともあり、新規の配達先を確保でき、食数が増加した。以下2点、新たな取り組みを行った。

- ① 当法人の地域貢献事業と根上・寺井・辰口地区社会福祉協議会とその地区の民生委員・児童委員協議会皆様のご協力を得て月1回高齢者向け配食弁当事業(ふれあい弁当)の実施。平均で10食の注文に対応した。また、特別弁当は土曜日の注文に対応し、6月に15食の提供を行った。
- ② 不定期ではあるが、食に関する情報(栄養だより)を掲示し発信することで、多くの人に食を身近に感じてもらう機会を作った。
他、昨年に引き続き、顧客満足度向上のため昼食(給食・弁当)利用者のアンケート調査を7月に行った。

(令和4年度に向けて)

- ・弁当注文について、個別に(配達・高齢者用等・価格は相談可)対応する。
- ・なごみの郷利用者のなごみ弁当利用の割合が全体の45%という現状。半分にも満たないのでより多くの利用者へ食事の大切さを伝え、食事利用への働き(ポスターやチラシ等)を重視して行いたい。
- ・利用者との関わり方については各担当者との情報共有を密に行い、一人ひとりに合わせて対応する。また、厨房作業に従事している利用者は特定の人が多いことから新しい利用者を確保していく。
- ・ふれあい弁当事業の実施と、栄養だよりでの情報提供を引き続き行う。
- ・年1回の昼食利用者へアンケートを実施し、その結果を食事提供に生かし、顧客満足度の向上につなげる。
- ・年2回の身体測定の実施で利用者の健康状態の把握。
- ・月1回の厨房内害虫駆除を実施。

(文責：山田)

昼食販売実績推移表

単位：食

| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------------|--------|--------|--------|
| 給食 | 1,454 | 1,344 | 1,371 |
| 館内(弁当) | 4,832 | 4,332 | 3,961 |
| くろゆり | 725 | 862 | 935 |
| はまかぜ | 881 | 409 | 330 |
| 山口分場 | 761 | 778 | 441 |
| 夢や | 534 | 382 | 278 |
| こまつ看護学校 | 356 | — | — |
| 南加賀保健福祉センター | 50 | — | — |
| その他(一般) | 1,700 | 1,917 | 2,959 |
| 計 | 11,293 | 10,024 | 10,275 |

・委託作業

〈小松市からの委託〉

- 4月 納税課より小松市内の245町内会への納期カレンダー封入作業を請け負った。
- 5月 ふれあい福祉課より小松市内の239町内会への数種類の書類、ポスター、世帯数分のパンフレットを仕分けて紐でしばる作業を請け負った。

〈企業からの委託〉

- 引き続き、沖田産業(株)のコード袋詰め作業を請け負った。
- 6月からトウエイ工業株式会社より、段ボールカット作業を請け負った。

〈古紙リサイクルステーション〉

小松市との委託契約を更新し「古紙リサイクルステーション3号店」の管理運営を行った。昨年と比べて取扱量が増加した。ゴールデンウィークなどの大型連休に増加し、祝日の開所日に運搬を行うこともあった。昨年に引き続き取り扱えないリサイクル品や一般ゴミの放置、古着の物色等の処分や整理整頓の作業も継続して行っている。

年間を通して市役所の環境推進課と連携してマナー違反の対応をしたが状況が改善されることは無く、地域の方々へ周知する方法が今後の課題となった。

古紙リサイクルステーション取扱量

単位：kg

| 種類 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|------------|--------|--------|
| 段ボール・牛乳パック | 8,440 | 8,930 |
| 新聞 | 5,570 | 5,970 |
| 雑誌・チラシ | 13,510 | 14,260 |
| 計 | 27,520 | 29,160 |

〈アクリルタワシ〉

- ・アクリルたわしの毛糸のご寄付を頂き、利用者に作業提供をすることができた。
- ・昨年度と比べても作業従事者、売り上げに大きな変化はなく、はまかぜからの注文が売り上げの大半を占めた。

〈リサイクル分別〉

- ・なごみの郷館内の缶・ビン・ペットボトルを毎週火曜日と金曜日に分別を行い月1回に「サービスセンターあしだ」へ運搬している。

(令和4年度に向けて)

- ・小松市より委託されている“古紙リサイクルステーション3号店”の利用マナーを小松市と連携して周知徹底を図りながら運営管理を行う。在留外国人や障害を持っている人など、どなたでも分かるような表記をしていく。
- ・委託作業については、つばさの環境にあった作業を提供しつつ、力がついてきた利用者には菓子や厨房、喫茶など他の作業へ移行できるように引き続き支援する。

(文責：北島)

令和3年度作業部門別収支内訳書

単位：円

| 科目名 | 給食 | 喫茶 | 菓子 | アクリル たわし他 | リサイクル 分別 | エコステ 清掃 | その他の 委託 | 計 |
|---------|-----------|---------|-----------|--------------|-------------|------------|------------|-----------|
| 収入の部計① | 4,881,645 | 794,030 | 1,078,428 | 50,407 | | 600,000 | 328,912 | 7,733,422 |
| 前年度収入 | 4,755,730 | 756,610 | 1,326,677 | 50,705 | | 600,000 | 226,745 | 7,716,467 |
| 材料費 | | | | | | | | |
| 当期材料仕入高 | 3,270,187 | 265,623 | 306,484 | 6,124 | | | | 3,848,418 |
| 労務費 | | | | | | | | |
| 利用者工賃 | 1,180,258 | 505,788 | 622,969 | 36,101 | 51,500 | 295,333 | 471,737 | 3,163,686 |
| 経費 | | | | | | | | |
| 福利厚生費 | 25,850 | | | | | | | 25,850 |
| 消耗品費 | 174,587 | 14,227 | 44,431 | | | 22,024 | 3,974 | 259,243 |
| 水道光熱費 | 176,132 | | 42,393 | | | | | 218,525 |
| 通信運搬費 | 520 | | | | | | | 520 |
| 修繕費 | | | | | | | | 0 |
| 雑費 | 660 | | 110 | | | | | 770 |
| 租税公課 | 127,772 | 27,114 | 35,649 | 1,350 | | | 29,630 | 221,515 |
| 支出の部計② | 4,955,966 | 812,752 | 1,052,036 | 43,575 | 51,500 | 317,357 | 505,341 | 7,738,527 |
| 前年度支出 | 4,750,361 | 736,749 | 1,290,774 | 52,328 | 53,500 | 321,467 | 377,492 | 7,582,671 |
| 余剰金①－② | △74,321 | △18,722 | 26,392 | 6,832 | △51,500 | 282,643 | △176,429 | △5,105 |

(令和4年度に向けて)

基本方針

- ・「安心→自信→回復」を目指して利用者ニーズに応える事業活動を進めます。
- ・共生・共助の地域作りに努め、地域に開かれた事業所としての取り組みを行います。

重点実施事項

- ① 利用者の体調安定の為、定期的な振り返りと関係機関との密な連携の下、電話や訪問支援含め、きめ細やかな対応を行います。
- ② 利用者の工賃向上と満足感を得られる作業提供の為、自主製品の販路拡大と利用者の特性に応じた作業の充実を図ります。
- ③ 地域課題の発見に努め、地域の一員としての役割を担うことで、施設の意義・障がいへの理解を深めていける活動に取り組みます。

(文責：中村)



盛り付け作業 給食配食弁当部門



商品提供 喫茶部門



いり菓子製造 菓子部門

《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》 能美地域活動センターはまかぜ

1 事業の概要

能美地域活動センターはまかぜは、就労継続支援B型事業（定員20人）・地域活動支援センター事業（定員10人）を行う事業所として10年目を向かえた。

今年度も、COVID-19の影響を受け年間を通じ感染リスクに配慮した運営となった。利用実績については、新規利用登録の動きが引き続き鈍く、地域の利用者ニーズにマッチした就労事業として今後検討が求められる年度となった。作業に関しては、同じくコロナ禍の影響で内職や自主製品販売の伸びが見込めず、また主作業である印刷作業は地域のイベント中止や、社会活動の停滞によりチラシ、広報誌等を中心に予算達成は見込めなかった。ただし利用者延べ人数の減により年間平均工賃は上がっている。

コロナ禍の中、利用者の生活の安定、作業獲得、行事活動など、今年も苦慮する一年であったが、全体的には昨年度よりは上向きに安定した一年であったと評価する。

(1) 就労継続支援B型事業

| | |
|------------|--|
| (サービス内容) | 心身面で一般就労に困難さを抱える方に、福祉サービスにおける就労・生産活動などの機会の提供と知識・能力の向上、一般就労に向けての必要な支援をする。 |
| (定員) | 20人 |
| (利用料) | 1日584円（個人の所得によって上限がある） |
| (サービス提供日時) | 月～金曜日（午前9時～午後4時まで） |
| (利用期間) | なし |
| (作業内容) | 印刷業務：名刺、年賀状、機関誌、チラシ類、封筒 他 |

内職業務：梱包作業、箱作業、封詰め作業、他
 自主製品：大麦ご飯の素、カブッキー・動物ぼち袋、手芸品
 施設外就労：清掃作業
 (その他) 昼食・送迎サービス

(2) 地域活動支援センター事業

(サービス内容) 心身面で日常生活に不安を抱える方に生活相談、創作、余暇活動などを通じて、その方らしい地域生活への活動を支援する。
 (定員) 10人
 (利用料) 4時間以下 266円 4時間を超えて6時間以下 346円
 6時間を超えた場合 405円
 (サービス提供日時) 月～金曜日 (午前9時～午後4時まで)
 (利用期間) なし
 (内容) 生活相談、創作・余暇活動 (パソコン、レク行事 [カラオケ食事会、散策等])、生産活動、又ほっと一息の居場所として活用
 (その他) 昼食・送迎サービス

2 事業実績

(1) 登録者の推移

①人数

単位：人

| 利用月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|----------------------|----|----|----|----|----|----|
| 就労継続支援 (B型) (定員 20人) | 26 | 26 | 25 | 25 | 25 | 25 |
| 地域活動支援事業 (定員 10人) | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 月平均 |
|-----|-----|-----|----|----|----|-----|------|
| 26 | 26 | 26 | 26 | 25 | 25 | 306 | 25.5 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 20 | 1.7 |

③ 市町村登録者数

単位：人

| 市町村名 | 能美市 | 小松市 | その他 | 計 |
|------|-------|-------|------|------|
| 延人数 | 203 | 103 | 0 | 306 |
| 構成比率 | 66.3% | 33.6% | 0.0% | 100% |

③年代別登録者数 (令和4年3月31日現在)

単位：人

| 年齢 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代～ | 計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|
| 男性 | 0 | 2 | 3 | 7 | 4 | 2 | 18 |
| 女性 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 0 | 7 |
| 計 | 1 | 4 | 4 | 9 | 5 | 2 | 25 |

(2) 延利用者・利用率の推移

就労継続支援B型事業

| 開所月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 延人数(人) | 253 | 226 | 264 | 233 | 254 | 277 |
| 開所日数(日) | 23 | 20 | 24 | 22 | 23 | 22 |
| 稼働率 | 55.0% | 53.5% | 55.0% | 53.0% | 55.2% | 63.0% |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 月平均 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 273 | 279 | 269 | 206 | 199 | 238 | 2971 | 247.6 |
| 23 | 22 | 25 | 22 | 20 | 24 | 270 | 22.5 |
| 59.5% | 63.5% | 54.0% | 47.0% | 50.0% | 49.5% | 54.9% | |

地域活動支援センター事業

| 開所月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---------|------|------|------|------|------|------|
| 延人数(人) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 開所日数(日) | 23 | 20 | 24 | 22 | 23 | 22 |
| 稼働率 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 月平均 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0.2 |
| 23 | 22 | 25 | 22 | 20 | 24 | 270 | 22.5 |
| 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.0% | 0.0% | 0.1% | |

(3) 平均工賃の推移

単位：円

| 支給月 | 4月 | 5月 | 6月 | 特別賞与 | 7月 | 8月 | 9月 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総支給額 | 174,953 | 135,948 | 163,736 | 247,853 | 147,629 | 160,975 | 187,648 |
| 平均工賃 | 8,748 | 7,997 | 8,618 | 12,393 | 8,202 | 8,472 | 9,382 |
| 支給人数 | 20人 | 17人 | 19人 | 20人 | 18人 | 19人 | 20人 |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年度末賞与 | 年度平均 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 213,985 | 260,287 | 276,239 | 167,648 | 148,198 | 168,804 | 803,400 | / |
| 11,888 | 14,460 | 16,249 | 9,862 | 8,718 | 9,378 | 44,633 | |
| 18人 | 18人 | 17人 | 17人 | 17人 | 18人 | 18人 | 18.3人 |

令和3年度の新規登録者は5人、登録終了者は5人(自宅療養2人、サービス利用事業変更3人〔A型1人、B型1人、生活介護1人〕)であった。今年度も見学含め、新規利用希望が少ない。
(文責：山口)

印刷部門

(令和3年度の主な動き)

◇名刺— カタログの内容を3年ぶりにリニューアルした。デザイン性や見やすさを重視し写真やQRコードを加えることができる等、アピールポイントを分かりやすく記載した。その結果、お客様からQRコードを加えて欲しいという依頼が多かった。コロナ禍で社会活動の制限が継続される中、まだまだ通常通りの注文数には戻らないが、昨年より約30件注文数が増えた。また、新規顧客は増加傾向であった。

◇年賀状— 前年度同様、早めの営業、郵送作業にとりかかることができた。営業では利用者とスタッフがペアになり営業することで、社会的経験も兼ねることができ利用者の自信にも繋がったように思える。

これまでの顧客を大切に、新たな顧客層を獲得する為に、特に若年層に求められるデザイン等を取り入れ幅広い年齢層に注文をしていただけるようなカタログを作成した。その結果、個人や事業所等の新規顧客獲得もできた。

◇自主製品— ぽち袋のデザインリニューアルを行った。ご当地キャラクター以外のデザインを考案し幅広いエリアで販売できるように考えた。また、これまでのぽち袋の作成方法の欠点を見直すことで、利用者の作成作業もスムーズに効率よくできるよう改善された。

石川県障害者スポーツ大会の参加賞として、カブッキーしおりの作成に挑戦した。

また、能美市や能社会福祉協議会のマスコットキャラクターを使用した、ぽち袋とカレンダーを作成し、自主製品のアピール活動も積極的に行うこともできた。

◇その他— 能美市より封筒印刷、JDDパンフレット、日本赤十字社献血粗品作り、イベントチラシ、パープルリボン作成、認知症サポートカード作成、生活困窮者・DV相談カード作成、つながるマップ作成、街フェスチラシ作成、虐待防止パンフレット印刷、社会福祉協議会より、成年後見人チラシやパンフレットの作成、川北町より自殺予防啓発ミニチラシ・粗品づくり、メンボラ ToMo の会会報、小松市特別支援教育振興会機関紙、北浅井町公民館報、蝶屋福祉だより、なごみの郷概要・封筒、また新規の事業所様より封筒注文をいただいた。

| 項目 | 令和2年度 | 令和3年度 | 項目 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------------|---------|---------|-----------|---------|---------|
| 年賀状 | 14,656枚 | 13,456枚 | 会報・機関誌 | 5,300部 | 5,650部 |
| 名刺 | 10,780枚 | 12,540枚 | 北浅井町公民館報 | 4,400部 | 3,860部 |
| ぽち袋・しおりセット | 81個 | 184個 | 封筒 | 10,048部 | 13,108部 |
| チラシ・パンフレット類 | 5,775部 | 5,250部 | なごみの郷事業概要 | 110部 | 110部 |
| 川北町自殺予防グッズ | 2,000個 | 2,000個 | なごみ通信 | 2,993部 | 2,122部 |

(令和4年度に向けて)

利用者個人の特性に応じた支援の提供、スキルアップできるよう、その都度声かけしながら本人のペースや体調に合わせ支援していく。

時代の流れを見据え、より多くのお客様に注文していただけるよう、印刷種類の充実を図りながら、売り上げアップ出来るよう営業先拡大、SNS等の掲載に力を入れていきたい。(文責：南出)

内職部門

(令和3年の主な動き)

◇(有)前田ケース

今年度はケーキBOX、インナーマスク封入作業を行った。特にケーキBOXでは、慣れた作業でもあり作業効率も良くスムーズに作業に取り組むことができた。コロナ禍で作業量が激減した2年度よりも作業量も増加し、納期に間に合わせるために進捗管理をして、利用者の作業に対する意識やモチベーションの向上につながった。また、個々の特徴に合わせて作業を割り振ることで、利用者もストレスなく出来たことで生産能力の向上が図られた。

単位：個

| 作業内容 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------------|--------|--------|
| ケーキBOX作業 | 27,000 | 60,000 |
| 可変式紙ファイル作業 | 10,850 | |
| 中芯作業 | 4,200 | |
| インナーマスク封入作業 | | 4,810 |

◇(有)ADポイント

今年度は菓子箱フタ閉め作業、菓子箱折り作業、仕切り板作成、DM封入作業を行った。定番の作業であるが、利用者自身もしっかり検品しながら仕上げてもらふことで、責任を持って取り組むことが出来た。

単位：部

| 作業内容 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|--------|-------|-------|
| DM封入作業 | 3,218 | 3,167 |

◇(株)金沢シール

本年度、新しく作業を頂く事になり、ラベルシール貼り作業に取り組んだ。季節物の商品であり納品スケジュールも厳しかったが、皆で頑張り納品に間に合わせた。

単位：枚

| 作業内容 | 令和3年度 |
|--------------|--------|
| 雑煮用餅袋シール貼り作業 | 44,597 |

(令和4年度に向けて)

各取引先との連携・協力を密にし、より信頼をもっていただけるよう正確な検品や早期の納品などのニーズに応えることを努力していきたい。また、利用者の生産能力向上のために、作業準備時間短縮などの作業能率を上げる環境づくりを重視するとともに、目標量と実績を見える化することで作業に対する意識・意欲の向上を図る。(文責：山口)

物販部門

(令和3年度の主な動き)

◇大麦ご飯の素

J A小松市様より「大麦ご飯の素」商品販売の業務を引き継ぎ、2年目となり昨年度以上の売り上げに向けて、新たに小松市内の保育園にも納品し販売促進に力を入れてきた。またSNSなどから個人様の問い合わせや注文もあった。主な販売場所は、道の駅こまつ木場潟、J Aめぐり、J A営農企画、J Aグリーン能美、根上屋などでの販売及び、企業商店からの注文であったが、昨年度より精麦のみの注文が多かった。

利用者の作業も、精麦された大麦から不純物を手作業で取り除く選別作業や、計量し、専用袋に入れる計量作業、商品配達や作業場を清掃する作業など、より多くの工程に関われるよう幅を広げた。

| 項目 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|------------------|-------|-------|
| 大麦ご飯の素 商品 (単位:個) | 1,056 | 1,028 |
| 大麦加工品のみ (単位:k g) | 170 | 470 |

◇自主製品

令和2年度より手芸品の販売を行っているが、ラインナップをリニューアルしながら「布製マスク」「ティッシュカバー」「髪飾り」の3点が好評であり、販売店舗も増えてきた。販売会で対面販売する事により、買い手側のニーズを直接聞き、購買意欲が沸く製品作りに生かすことで販売数を少しずつ増やせている。また、作業としても楽しく意欲的に取り組む事が出来ている為、今後も販路拡大に努めていきたい。

(令和4年度に向けて)

大麦ご飯の素作業は、姉妹品として考案した「無添加まる麦」「大麦ご飯の素お試しパック」の販路拡大に向け取り組んでいきたい。また大麦を使ったコラボレーション等を考えられるよう、地域商店、企業へ営業をしていきたい。また手芸品全般においてデザインや素材を吟味しながら、より使用感の良い魅力ある製品を提供できるように、日々試行錯誤を楽しみながら積み重ね制作していきたい。(文責:山口)

施設外就労

(令和3年度の主な動き)

◇特別養護老人ホーム ボニジュール根上苑〔浴室清掃作業〕

利用者の工賃と一般就労等に向けたスキルを向上させる為、施設外就労への取り組みを行った。今年度も年間を通じて作業にしっかりと利用者が入ることができた。また、丁寧な清掃を作業時間内に終えるよう自己点検を行いながら清掃作業に取り組んだ。また、コロナ禍の為、感染対策をしっかりと行い作業に取り組んだ。

(令和4年度に向けて)

継続的に利用者が安定して従事し、作業の幅や質向上、従事日数が増えていくよう今後も支援する。また取り組む従事者数を確保し、新たな施設外就労への取り組みを検討したい。(文責:山口)

令和3年度作業部門別収支内訳書

単位：円

| 科目名 | 販売 他 | 印刷 | 大麦 | ホニョール | 前田ケース | その他内職他 | 計 |
|---------|---------|-----------|---------|--------|---------|---------|-----------|
| 収入合計① | 186,515 | 3,467,719 | 936,716 | 51,250 | 478,552 | 511,795 | 5,632,547 |
| 当期材料仕入高 | 11,856 | 1,986,268 | 208,140 | 0 | 0 | 55,000 | 2,206,264 |
| 利用者工賃 | 102,850 | 2,144,290 | 441,660 | 49,375 | 401,008 | 112,089 | 3,251,272 |
| 消耗品費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 外注加工費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 租税公課 | 5,140 | 95,561 | 25,813 | 1,412 | 13,188 | 3,555 | 144,669 |
| 支出合計② | 259,375 | 4,130,558 | 649,800 | 49,375 | 401,008 | 167,089 | 5,602,205 |
| 余剰金①-② | △72,860 | △662,839 | 286,916 | 1,875 | 77,544 | 344,706 | △24,658 |

その他

(令和3年度の主な取り組み)

- ・地域交流の障がい福祉の理解、啓発の一環として行ってきたイベントや販売会関係は、COVID-19により引き続き中止を余儀なくされたが、能美市が障がい理解啓発や福祉人材発掘として企画した「ごちゃまぜファッションショー」では、利用者3人が学生の企画委員と交流しながら出場したことは大きな経験と楽しみとなった。また能美市ここに寄り添い合う人づくり委員会企画として行った、地域住民に向けての精神障がい者への理解啓発講座は、オンラインを使い利用者1人が自身の経験談を話された。
- ・コロナ禍で、はまかぜの行事も、縮小など思うように出来なかったが、その中でも利用者が実行委員になり年間を通して季節感のある行事を取り入れ、日々の生活の潤いと親睦を深めた。またSST（社会生活技能訓練）、グループワークや、就労セミナーなど一般就労等に向けた社会性の幅を広げる活動も企画した。

(文責：山口)

(令和4年度に向けて)

基本方針

- ・思いやりの心を第一に、利用者寄り添う専門的なサービスを提供し、利用者から選ばれる事業活動を進めます。
- ・利用者の仲間づくりの場として、お互いに研鑽し成長しあえる活動を進めます。
- ・利用者が、地域で偏見や差別なく安心して豊かに暮らしていけるよう、能美市「地域共生社会」の実現を進めます。

重点実施事項

- ①サービス機能の強みを発信し、新たな地域の障がい者の受け入れと作業工賃向上やメニューの拡充を進めます。
- ②利用者（当事者）同士の交流や、抱える地域課題など共有できる場を作り、地域活動への発信（当事者発表や交流事業等）を進めます。
- ③地域貢献と障がい者理解促進の為、地域の行事、活動に参加・協力等、関係作りを進めます。

(文責：山口)

《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》
能美地域活動センターはまかぜ山口分場

1 事業の概要

能美地域活動センターはまかぜ山口分場は、就労継続支援B型事業（定員20人）等を行う事業所として、COVID-19が流行し続け、見学・体験をすることが難しい状況が続くなか、作業確保は年間通してでき、提供していくことが出来た2年目だった。コロナ禍で、利用者の生活の安定、作業への取組み、行事参加など、コロナ対策をして行う一年であったが、「地域でできる事」を考え、町内清掃などの活動を行った。利用者・職員が感染することなく日々を送ることができ、事業活動を継続し開所することが出来たことは幸いであった。

(1) 就労継続支援B型事業

| | |
|------------|--|
| (サービス内容) | 心身面で一般就労に困難さを抱える方に、福祉サービスにおける就労・生産活動などの機会の提供と知識・能力の向上、一般就労に向けての必要な支援をする。 |
| (定員) | 20人 |
| (利用料) | 1日584円（個人の所得によって上限がある） |
| (サービス提供日時) | 月～金曜日（午前9時～午後4時まで） |
| (利用期間) | なし |
| (作業内容) | 内職業務：梱包作業、箱作業、箱入作業、部品袋入作業、他 自主製品：デコレーションクリップ、他 施設外就労：清掃作業 |
| (その他) | 昼食・送迎サービス |

(2) 地域活動支援センター事業

| | |
|------------|---|
| (サービス内容) | 心身面で日常生活に不安を抱える方に生活相談、創作、余暇活動などを通じて、その方らしい地域生活への活動を支援する。 |
| (定員) | 10人 |
| (利用料) | 4時間以下 266円 4時間を超えて6時間以下 346円 6時間を超えた場合 405円 |
| (サービス提供日時) | 月～金曜日（午前9時～午後4時まで） |
| (利用期間) | なし |
| (内容) | 生活相談、創作・余暇活動（パソコン、レク行事〔カラオケ食事会、散策等〕）、生産活動、又ほっと一息の居場所として活用 |
| (その他) | 昼食・送迎サービス |

2 事業実績

(1) 登録者の推移

①人数

単位：人

| 利用月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|-------------------|----|----|----|----|----|----|
| 就労継続支援（B型）（定員20人） | 24 | 24 | 24 | 23 | 24 | 23 |
| 地域活動支援事業（定員10人） | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 月平均 |
|-----|-----|-----|----|----|----|-----|------|
| 22 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 269 | 22.4 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 | 1.0 |

②市町村登録者数

単位：人

| 市町村名 | 能美市 | 小松市 | その他 | 計 |
|------|-------|-------|------|------|
| 延人数 | 162 | 95 | 24 | 281 |
| 構成比率 | 57.7% | 33.8% | 8.5% | 100% |

③年代別登録者数（令和4年3月31日現在）

単位：人

| 年齢 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代～ | 計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|
| 男性 | 0 | 2 | 3 | 2 | 8 | 1 | 16 |
| 女性 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 0 | 6 |
| 計 | 0 | 2 | 3 | 5 | 11 | 1 | 22 |

(2) 延利用者・利用率の推移

就労継続支援B型事業

| 開所月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 利用人数（人） | 250 | 210 | 233 | 196 | 226 | 231 |
| 開所日数（日） | 23 | 20 | 24 | 22 | 23 | 22 |
| 稼働率 | 54.3% | 52.5% | 48.5% | 44.5% | 49.1% | 52.5% |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 月平均 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 238 | 249 | 230 | 224 | 199 | 233 | 2,719 | 226.6 |
| 23 | 22 | 24 | 22 | 20 | 24 | 269 | 22.4 |
| 51.7% | 56.6% | 47.9% | 50.9% | 49.8% | 48.5% | 50.5% | |

地域活動支援センター事業

| 開所月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---------|------|------|------|------|------|------|
| 延人数（人） | 21 | 18 | 22 | 19 | 17 | 15 |
| 開所日数（日） | 23 | 20 | 24 | 22 | 23 | 22 |
| 稼働率 | 9.1% | 9.0% | 4.6% | 8.6% | 7.4% | 6.8% |

| | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 月平均 |
| 16 | 17 | 16 | 12 | 11 | 14 | 198 | 0.7 |
| 23 | 22 | 24 | 22 | 20 | 24 | 269 | 22.4 |
| 7.0% | 7.7% | 6.7% | 5.5% | 5.5% | 5.8% | 7.4% | |

(3) 平均工賃の推移

単位：円

| | | | | | | | |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 支給月 | 4月 | 5月 | 6月 | 特別賞与 | 7月 | 8月 | 9月 |
| 総支給額 | 127,509 | 121,997 | 141,720 | 125,385 | 113,907 | 123,205 | 112,048 |
| 平均工賃 | 5,796 | 5,809 | 6,442 | 5,971 | 5,995 | 5,867 | 5,336 |
| 支給人数 | 22人 | 21人 | 22人 | 21人 | 19人 | 21人 | 21人 |

| | | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年度末賞与 | 年度平均 |
| 130,356 | 150,556 | 117,207 | 119,551 | 108,797 | 185,686 | 150,978 | |
| 6,518 | 7,528 | 5,860 | 6,292 | 5,726 | 10,923 | 7,946 | 7,667 |
| 20人 | 20人 | 20人 | 19人 | 19人 | 17人 | 17人 | 20.0人 |

令和3年度の新規登録者は3人、登録終了者は4人（圏域外転居1人、就労継続支援A型2人、他就労継続支援B型1人）であった。COVID-19の流行の為、見学・体験の受け入れが難しい状況の中、感染対策をし、各関係機関と連携しニーズに沿った利用に繋がるよう努めた。
(文責：江端)

企業委託作業部門

(令和3年度の主な動き)

◇三和物産(株)

葬儀用品の作業を行う。アメニティセットや箱の組立、セット物の詰め作業、お香の袋詰めやケース詰めなど多種多様な内職作業を、COVID-19の影響も少なく、年間通して請け負うことができた。利用者個々の特徴を捉え、作業提供をしつつ、取り組んだことのない作業にも取り組めるよう利用者と話し合いをしながら進めた。

◇宏文印刷(株)

前年度より引き続き、骨上箸の作業を請け負うことができた。COVID-19の影響は少なく、作業量は前年度よりも増え、年間を通して利用者全員が従事できる作業となった。骨上箸以外にも印刷紙の二つ折り作業など、短期納期の作業として請け負うこともできた。

◇J A小松市

J A小松市より委託を受け、「竹の子ごはんの素」のレトルトパウチ箱詰め作業を行い、職員による検品の後、利用者による作業ごとの検品や、商品の納品も利用者の作業として行った。また、以前からあったトマトカレー作業は、箱型パッケージ製品の取り止めにより作業がなくなった。

内職納品数

単位：個

| 商品名 | 納品数 | |
|----------|-------|-------|
| | 令和2年度 | 令和3年度 |
| 竹の子ごはんの素 | 4,353 | 5,248 |

◇コマニー(株)

「SLーポールウワドメ」、「SLーポールシタドメ」、「SLーMFカナグ」、「PLーポールウワドメ」、「PLーポールシタドメ」5種類の作業を行う。袋詰めした後に箱詰めする作業も引き続き請け負った。利用者にも検品をしてもらい、自分の行った品物を一緒に確認することを続けることで、よりミスのない作業を心がける意識が強くなった。

内職納品数

単位：個

| 金具名 | 納品数 | |
|------------|-------|-------|
| | 令和2年度 | 令和3年度 |
| SLーポールウワドメ | 440 | 360 |
| SLーポールシタドメ | 480 | 440 |
| SLーMFカナグ | 1,920 | 2,176 |
| PLーポールウワドメ | 880 | 970 |
| PLーポールシタドメ | 940 | 940 |
| 納品総数 | 4,660 | 4,886 |

◇(株)ハクサンケミカル

令和3年度3月より、(株)ハクサンケミカルより作業委託を受け、紙管巻生地の外装剥がし作業を、企業に出向いて行うことを始めた。

自主製品部門

◇デコレーションクリップ・PPバンドバック・ビニールバック ほか

COVID-19 影響はあったが、地域の販売会やこまつ道の駅、能美市社会福祉協議会などに置かせて頂き販売し、実際に多くの方に手に取って頂く機会も出来た。

(令和4年度に向けて)

三和物産(株)、宏文印刷(株)、JA小松市、コマニー(株)、(株)ハクサンケミカルなどの各取引先との連携・協力を密にして、より信頼をもっていただき、新しく作業の依頼をしていただけるよう努めていく。より正確な作業や欠品の少ない納品になるよう計画的に作業の流れを作り、作業工程を細分化することで作業種類の確保を行い、より利用者に合わせた作業提供ができるよう工夫をする。併せて新しい作業を請け負うことができるよう新規取引先の開拓を行い、作業量の確保と工賃向上を目指して行動していく。また、創作活動と作業を組み合わせ新たな自主製品の開発を行い、販売もしていきたい。

(文責：前出)

施設外就労

(令和3年度の主な動き)

◇特別養護老人ホーム ボニジュール根上苑〔浴室清掃作業〕

利用者の工賃と一般就労等に向けたスキルを向上させるため、施設外就労への取り組みを行った。また新たに作業に従事する利用者も増え、安定して作業に従事すること

ができた。丁寧な清掃を作業時間内に終わるよう自己点検を行い、各作業に全員が従事できるよう定期的に作業内容を入れ替えながら清掃作業に取り組んだ。

(令和4年度に向けて)

利用者が安定して作業を継続できるよう、従事日数を増やしていけるよう今後も支援する。また施設外就労に取り組む従事者数を確保していきたい。

(文責：前出)

令和3年度作業部門別収支内訳書

単位：円

| 科目名 | 販売 他 | J A | ホニョール | コマニー | 三和物産 | 他内職 | 計 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|-----------|
| 収入合計① | 143,069 | 108,623 | 102,500 | 114,370 | 1,657,114 | 202,825 | 2,328,501 |
| 当期材料仕入高 | 23,405 | 0 | 0 | 0 | 148,928 | 0 | 172,333 |
| 利用者工賃 | 122,514 | 89,726 | 90,000 | 70,785 | 1,437,725 | 237,790 | 2,048,540 |
| 外注加工費 | 20,235 | 0 | 0 | 9,060 | 25,618 | 0 | 54,913 |
| 租税公課 | 3,528 | 7,465 | 3,443 | 2,907 | 37,346 | 188 | 54,877 |
| 支出合計② | 169,682 | 61,191 | 93,443 | 82,752 | 1,449,617 | 237,978 | 2,330,663 |
| 余剰金①-② | △26,613 | 11,432 | 9,057 | 31,618 | 7,497 | △35,153 | △2,162 |

その他

(令和3年度の主な取り組み)

- ・独立して2年目の事業を展開した。COVID-19の影響で見学・体験の希望に添えないことが多かったが、そのような状況の中3人の新規利用者が利用を始めることができた。企業からの新しい作業も増え、年間通じて作業が無いという状況はなかった。
- ・地域への障害福祉の理解、啓発の一環として前年度まで参加していた「ぼくらの街フェス in 能美」などの地域活動は規模の縮小をされる状況であったが、参加して自主製品を販売することが出来た。山口町での活動としては、町内清掃の参加や、山口分場として町内のゴミ拾いを行った。「山口町でできることは山口町でしょう」ということで、ドラッグストアで購入していた能美市指定ごみ袋を山口町の商店で購入し始めた。
- ・COVID-19の為、年間行事は3か月に1回程度の行事となり、週1回の余暇活動を継続して行うことで、イベント等の自粛・活動制限・感染対策が行われる中でも、生活の中の楽しみと他の方々との親睦を深める機会とした。

(文責：江端)

(令和4年度に向けて)

基本方針

・思いやりの心を大切に専門的なサービスを提供し、利用者が安心して通える事業活動を進めます。

- ・利用者の仲間づくりの場となり、無理をせず成長していける場の提供を進めます。
- ・能美市が取り組む「地域共生社会」の形成に、障がい者福祉の視点から貢献します。

重点実施事項

①新規の利用者を増やせるよう、事業所としての特色を関係機関に知ってもらえる活動を行います。

②地域貢献の一環として、地域の行事活動に参加・協力し、障がい者、事業所を理解

- してもらえる機会と関係作りに努めます。
- ③自主製品の企画・製作や新たな作業獲得に努め、事業所の新たな柱となる「もの」等を開拓します。(文責:江端)

《共同生活援助事業（介護サービス包括型）》
グループホームなごみ・しらさぎ

1 事業の概要

(目的) 共同生活援助事業は、利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びに、その置かれている環境に応じて、共同生活住居において相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行うことを目的としている。

<グループホームなごみ>

(定員) 10人
(家賃) 月額28,000円(但し、電気水道代及び食事代は、自己負担)
※家賃助成制度あり

<グループホームしらさぎ>

(定員) 6人
(家賃) 月額23,000円(但し、電気水道代及び食事代は、自己負担)
※家賃助成制度あり

<共通>

(利用料) 区分と所得に応じて各自異なる。
(共益費) 入浴代、共通利用部分電気代等 月額2,000円
(食事) 基本的には自炊。(必要に応じて世話人、生活支援員が支援する)
また、希望すれば、月～金の昼食、夕食は、給食サービスが利用できる。
(洗濯) 洗濯機1回(30分)100円、乾燥機1回(60分)100円
(駐車場代) 月額1,000円(なごみの郷駐車場利用者、自転車2台目から)

2 年代別利用者内訳(令和4年3月31日現在) 単位:人

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代～ | 計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|
| 男性 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 5 | 10 |
| 女性 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 6 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 2 | 6 | 8 | 16 |

3 利用状況

令和3年度 グループホームなごみ・しらさぎの入退去者数 単位:人

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 入所 | — | — | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 退所 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 月末利用者数 | 15 | 15 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 |

令和3年度 グループホームなごみ・しらさぎの入居実数 単位：人

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| なごみ | 9 | 9 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| しらさぎ | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 月末利用者数 | 15 | 15 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 |

グループホームなごみ定員10人、しらさぎ定員6人。令和3年度は、6月に病院からなごみへ1人入居し、令和4年3月31日現在で16人の入居者となっている。

4 主な日中の生活の場（令和4年3月31日現在）

- ・就労継続支援事業B型 6人 ・生活介護事業 1人
- ・地域活動支援事業 3人 ・一般就労 1人
- ・就労継続支援事業B型と地域活動支援事業の併用 2人
- ・該当なし 4人

5 利用者支援等

(1) 行事及び活動

①地域交流等

- ・毎年恒例の北浅井町町内会一斉清掃は、COVID-19の為、開催されなかった。
- ・年2回、11月と3月に防災訓練を行った。

11月は夜間世話人のいない22時の火災を想定し避難訓練を行った。「相談室」「共有室」を出火場所とし、駐車場に避難した。薄暗い時間帯で夜をイメージして行った。

3月は訓練用消火器を使い、火元を想定した的に当てる訓練を行った。関心の高かった水害についてDVDを鑑賞する中で、水害は時間的な猶予があり、気象情報や避難情報をニュース等で確認すること等を学んだ。11月と3月の訓練後はアンケートを行い、合同ミーティングでアンケート結果等を振り返った。

②企画

- ・平日10時と14時頃に職員と利用者で自主的に体操（ラジオ体操等）を行った。
- ・11/16（水）と11/17（木）に寄付して頂いた入浴剤をお風呂に入れる企画を行った。好評につき第2弾として12/2（水）と12/30（木）、第3弾として3/30（水）と3/31（木）にも行った。
- ・12/24の夕食時にクリスマス会を行い、皆でクリスマスの歌を歌い、食事とケーキを食べた。司会進行を職員と利用者で行った。

③利用者間交流

- ・平日午後4時頃より利用者同士の交流を図るため、「フレンズの会」を行っている。マスクの着用や三密を作らない様にしたがって行った。

《フレンズの会の内容》

利用者が自主的に憩いの間に集まり歌を唄ったり、手作りのすごろくやトランプ等のゲームをして楽しく過ごした。

(2) ミーティング

毎月1回、定例でグループホーム利用者全体ミーティングを行い、行事等のお知らせ

せや共同生活を行う上でのルール等を皆で話し合っている。COVID-19 について臨時でミーティングを開いた。定例の話し合いでは健康についてやゴミ問題等などの話し合いをした。防災訓練の後には、皆で振り返りをした。

| 月 | 種別 | 参加者 | 内 容 |
|----|----|-----|---|
| 4 | 定例 | 13人 | 緊急時の連絡手段について（アルソックのまもるっく導入）、障害者タクシーチケットの手續きについて、GH 契約書の更新、玄関の暗証番号の変更、COVID-19 の感染予防、新型コロナワクチン接種、紙パックの捨て方《生活お役立ち情報》市の集団健診の推奨（がん検診、はつらつ健診、歯科検診） |
| 5 | 定例 | 13人 | 新型コロナワクチンの接種、COVID-19 の感染予防、なごみ祭の中止のお知らせ、GW の予定。《生活お役立ち情報》清掃について ①災害時の逃げ道確保と整理整頓②コンセントの周辺の点検、使わないコンセントは抜こう③カーテン、シーツの洗濯をしよう。 |
| 6 | 定例 | 13人 | 消防設備点検のお知らせ。居室ワックスがけ大掃除の告知。ゴキブリ団子の配布。COVID-19 の感染予防、水害時の避難について。《生活お役立ち情報》食中毒の注意喚起。 |
| 7 | 定例 | 13人 | 新規入居者の紹介。COVID-19 の感染予防、お風呂のエチケット、共有部分のワックスがけの日程、防災訓練の告知。《生活お役立ち情報》熱中症予防について。 （しらさぎミーティング）掃除当番についての話し合い |
| 8 | 定例 | 15人 | COVID-19 の感染予防、新型コロナ緊急行動について、お風呂のエチケット、9月の共有スペースのワックスがけ大掃除の告知、11月の防災訓練の告知、祝日変更のお知らせ。はつらつ健診の促し。《生活お役立ち情報》熱中症警戒アラートについて。 |
| 9 | 定例 | 14人 | 新型コロナ感染症まん延防止緊急期間について、お風呂のエチケット、共有スペースのワックスがけ大掃除の告知、健診の促し、夜間世話人の対応時間のお知らせ。《生活お役立ち情報》マスクの正しいつけ方 （しらさぎミーティング）消耗品代の徴収について。掃除当番について意見交換。 |
| 10 | 定例 | 14人 | COVID-19 の感染予防、防災訓練の告知、インフルエンザ予防接種の告知、健診のお知らせ、学生実習の告知。《生活お役立ち情報》ごみの捨て方、ゴミの分別方法。 |
| 11 | 定例 | 14人 | 学生実習の日程、脱衣場ガスヒーターと浴室エアコンの使用について、インフルエンザ予防接種の日程、COVID-19 の感染予防、防災訓練の告知、火災予防運動のお知らせ、年末大掃除の告知《生活お役立ち情報》食器の洗い方《話し合い》特別入浴デー企画について（しらさぎミーティング）掃除当番の振り返り |
| 12 | 定例 | 13人 | 脱衣場のエアコンの使用について、北陸銀行のなごみの郷作品展のお知らせ、消防設備点検の告知、インフルエンザ予防接種の日程、COVID-19 の感染予防、すす払い大掃除の告知、年末年始の予定、特別入浴デー企画の振り返り、防災訓練の振り返り。 |

| | | | |
|---|----|-----|---|
| 1 | 定例 | 14人 | COVID-19の感染予防、土日祝の服薬確認について、ゴミ捨てマナーのお願い、間違い探しクイズ。《生活お役立ち情報》トイレの詰まりについて《話し合い》来年度に向けて |
| | 臨時 | 11人 | 新型コロナウイルス感染症対策について。 |
| 2 | 定例 | 13人 | COVID-19感染予防、新型コロナワクチン3回目接種のお知らせ、GH便りの送付について、燃えないごみの捨て方、夢や文化事業のお知らせ、憩いの間のゴミ箱について。《生活お役立ち情報》トイレの流し方《話し合い》来年度に向けて |
| 3 | 定例 | 12人 | COVID-19の感染予防、新型コロナワクチン3回目接種の案内、GH便り配布のお知らせ、防災訓練の告知、憩いの間の飲食禁止について再度のお願い、春の火災予防運動、ゴミ捨てルールをお願い。 |

(3) 個別支援

①日常生活の支援

- ・生活リズムを整えるための支援（朝の声かけ、体調確認や日中の過ごし方の確認等）
- ・買物支援（生活に必要な物の購入の仕方等）
- ・金銭管理（福祉サービス利用支援事業の利用、生活費等の使い方の支援等）
- ・清掃支援（ゴミの出し方や居室の清掃、共有スペースの清掃）※グループホームしらさぎのみ
- ・清潔保持の為の支援（入浴・洗濯の声かけ、身だしなみの促し等）

②医療に関する支援

- ・服薬管理（服薬の確認等）
- ・受診同行

③個別面接及び相談支援

- ・個別支援計画面接
- ・日中の相談支援
- ・午後8時半まで世話人の配置を行い利用者の服薬管理及び支援や緊急時の対応

④家族支援

- ・家族からの相談対応

⑤関係機関との連携

- ・利用者に関わる機関や行政及び病院関係者と連携しながら支援を行っている。

6 令和3年度の動向

今年度は、昨年同様、COVID-19の話し合いや情報共有をしながら、感染対策に気をつけながら日常生活を行った。日常生活支援の中では、入浴剤をご寄付いただいたことをきっかけに、リラックスや癒しの入浴が提供できればと「特別入浴デーなごみ湯」を企画し、通常は16時からの入浴だが、当日は、14時から入浴できるようにした。健康面では、午前・午後に5分程の体操を取り入れ、体を動かす機会として取り組んだ。この時間は健康と同時に入居者同士の関わりの時間ともなる為、今後も継続していけたらよいと思っている。

家族懇談会は、COVID-19により開催が出来ない為、ご家族に入居者の生活を感じてもらえたらとの思いから、「グループホームなごみ・しらさぎ便り」を作成し、グループホームの出来事や行事のお知らせと利用者の写真を入れ、職員のメッセージを添えたものとしてご家族に発送した。ご家族の方の中には、日頃の様子や本人の元気な顔が見られたと喜びの声も頂き、今後もグループホームの様子をご家族に知って頂く機会を設け、家族と共に利用者支援に取り組んでいけたらと思う。

(令和4年度に向けて)

基本方針

- ・利用者の体調や日常生活を整え、安心した日常生活が送れるよう支援します。
- ・グループホームの生活は、「共同生活である」という意識を持って生活していけるよう支援します。
- ・グループホームの提供するサービスが利用者の求めているものと合っているか検証し、サービスの質の向上に努めます。

重点実施事項

- ①体調や日常生活を整えていけるよう、健康診断の促しや運動を生活に取り入れていきます。
- ②入居者同士が共同生活している意識を持てるよう、話し合いの場や機会を作っていきます。
- ③グループホームの在り方を利用者や地域のニーズと運営のバランスを考慮して検証していきます。
- ④利用者へより良いサービス提供ができるように多くの関係機関と連携しながら支援の質の向上に努めます。
(文責:瀬戸)

《相談支援事業》

相談支援センターなごみ・相談支援センターはまかせ

1 事業の概要

(目的) 障害を持たれた方やそのご家族の福祉や生活全般に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他の障害福祉サービスの利用支援等、必要な支援を関係機関との連携を取りながら行うとともに、虐待の防止及びその早期発見、その他の障害者等の権利擁護のために必要な援助を行う。

(利用料) 無料。

(利用時間) 月曜日～金曜日(土・日・祝日、12/29～1/3はお休み) 9:00～17:30

2 事業の実施期間 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

3 事業内容

- ・基本相談(小松市、能美市、川北町より委託)
福祉サービスに繋がっていない障害のある方、その家族への相談業務と必要な支援を行う。
- ・特定相談支援
福祉サービス利用者に対し、サービス等利用計画の作成を行うとともに、サービス調整やモニタリングの実施などを通し、本人のニーズをもとに必要に応じて支援を行う。
- ・一般相談支援事業(地域移行・地域定着)
精神科病院からの退院支援、施設入所施設からの退所支援、その後の地域生活が定着するよう支援を行う。
- ・障害児相談支援事業
福祉サービス利用者に対し、サービス等利用計画の作成を行うとともに、サービス調整やモニタリングの実施などを通し、ニーズをもとに必要に応じて支援を行う。

相談支援センターなごみ

①年間利用状況

| 利用月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|--------|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 相談実人数 | 63 | 65 | 58 | 66 | 60 | 67 | 68 | 72 | 66 | 73 | 79 | 72 | 809 |
| 相談件数 | 119 | 94 | 116 | 115 | 113 | 143 | 129 | 145 | 140 | 153 | 157 | 147 | 1,571 |
| 計画相談件数 | 44 | 37 | 37 | 43 | 44 | 38 | 37 | 38 | 39 | 44 | 49 | 52 | 502 |

②年間支援方法

単位：件

| 訪問 | 来所相談 | 同行 | 電話相談 | 個別支援 会議 | 関係 機関 | その他 | 計 |
|-----|------|----|------|------------|----------|-----|-------|
| 489 | 203 | 61 | 540 | 77 | 176 | 23 | 1,569 |

③サービス等利用計画作成対象者（令和4年3月31日現在）

単位：人

| 年齢 | ～10代 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代～ | 計 |
|----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 男性 | 13 | 5 | 9 | 5 | 11 | 15 | 19 | 77 |
| 女性 | 6 | 3 | 7 | 8 | 5 | 15 | 13 | 57 |
| 計 | 19 | 8 | 16 | 13 | 16 | 30 | 32 | 134 |

④ 小松市障害支援区分認定調査数

単位：件

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 1 | 0 | 3 | 3 | 2 | 4 | 1 | 2 | 4 | 4 | 6 | 5 | 35 |

（令和3年度の主な動き）

令和2年6月より地域生活支援拠点等の整備の業務として、相談支援センターなごみ含む市内5か所の相談支援事業所の輪番制により、夜間・休日の緊急電話の対応を実施している。また、今年度より、小松市で重層的支援体制整備事業がスタートし、相談支援センターなごみは11月に“アウトリーチ等を通じた継続的支援事業”の委託契約を小松市と締結した。

個別のケースとしては、一昨年、昨年に引き続き、児童発達支援や放課後等デイサービス等の利用を希望する児童のサービス希望者が多かった。児童のケースでは、こども園や学校の中の出来事に関する悩みや、登校拒否、子育てに関する家族の不安等といった課題を抱えるケースも多く、福祉サービスの調整以外の関わりも多く必要であった。成人のケースでは、家計・経済に関する支援が増えている。収入が足りないという状況だけでなく、収支の把握や適切な金銭の使い方がわからないという状況もあった。また、家族が高齢となりそれまで行われていた支援体制の見直しが必要となるケースも複数あった。

複雑で関わりが困難なケースは相談支援事業所だけで抱え込まず、地域にある各種機関と積極的につながり協働で支援を行うよう心掛けた。

<行政、他機関との連携>

相談支援専門員としての動きやケースを通しての共通理解などを深め、行政や病院、学校、他の事業所との連携を強化し、チームとして活動していけるようケース報告やケース検討を行った。また、相談支援の在り方や今後の相談支援の体制などについての話し合いを行った。

- ・連携支援会議 毎週金曜日 小松市ふれあい福祉課、障がい者相談支援センターと合同でケース報告、新規ケースの依頼、情報交換（オンライン開催）
- ・小松市相談支援事業所連絡会 月1回（オンラインまたは集合にて）
- ・その他ケースにあわせたケア会議の出席や情報共有
- ・高齢者総合相談支援センターミニ地域ケア会議

<障害者自立支援協議会>

年度目標をたてながら課題整理や年度計画達成に向けた活動を行った。

- ・全体会 年1回 ※今年度は COVID-19 の影響で書面表決（7月）
- ・運営委員会 年3回 ※第3回は COVID-19 の蔓延防止でオンライン開催
- ・当事者の声を聴くための仕組み作りを考える会 年5回
令和4年4月に当事者会を開催予定
- ・高齢者総合相談センター・相談支援事業所連携会議 年1回
- ・精神障害者等地域生活支援研究会 今年度は開催なし
- ・福祉つながりネットワーク ※今年度は開催なし
- ・石川県自立支援協議会ネットワーク会議 年2回

（令和4年度に向けて）

障害を持たれた方やご家族の、福祉や生活全般に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他の障害福祉サービスの利用支援など、関係機関や地域との連携を取りながら、その方が地域でよりよい生活が送れるよう必要な支援を行います。

重点実施事項

- ①地域生活支援拠点整備事業や重層的支援体制整備事業について、行政や関係機関と連携し、包括的な相談支援体制の構築について協議します。
- ②自立支援協議会への積極的な参加により、地域課題整理や資源開発に向けた活動を行います。
- ③各種研修会や事例検討会などの参加、また個々のケースを通じた連携などにより、専門職としてのスキルアップをはかります。 （文責：宇野）

相談支援センターはまかせ

①年間利用状況

| 利用月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|--------|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|-----|-----|----|----|-----|-------|
| 相談実人数 | 49 | 49 | 52 | 50 | 51 | 48 | 53 | 57 | 54 | 50 | 50 | 63 | 626 |
| 相談件数 | 107 | 104 | 119 | 90 | 103 | 84 | 102 | 100 | 103 | 85 | 97 | 135 | 1,237 |
| 計画相談件数 | 22 | 21 | 32 | 27 | 34 | 35 | 25 | 30 | 34 | 27 | 35 | 48 | 370 |

②年間支援方法

単位：件

| 訪 問 | 来所相談 | 同 行 | 電話相談 | 個別支援 会 議 | 関 係 機 関 | その他 | 計 |
|-----|------|-----|------|-------------|------------|-----|-------|
| 615 | 93 | 214 | 238 | 30 | 47 | 0 | 1,237 |

サービス等計画作成対象者

令和4年3月31日現在 単位：人

| 年齢 | ～10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代～ | 計 |
|----|------|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 男性 | 11 | 8 | 11 | 12 | 24 | 5 | 71 |
| 女性 | 1 | 2 | 4 | 11 | 10 | 3 | 31 |
| 計 | 12 | 10 | 15 | 23 | 34 | 8 | 102 |

③能美地域障害程度区分認定調査数

単位：件

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 1 | 3 | 3 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 6 | 2 | 3 | 2 | 29 |

(令和3年度の主な動き)

地域生活支援拠点ワーキングや自立支援協議会などの参加を通し、相談支援体制や個別支援から感じられる地域課題などの話し合いを行ってきた。

令和3年度の相談傾向としては、児童の相談ケースが増え、早期療育を求め、児童発達支援や放課後等デイサービスの利用調整が多かったが、資源として不足している状況もあり調整に苦慮している。ケースとしては不登校児のケースが多く、年齢的にも低年齢化している。また、複合的に課題があり、家族全体として支援が必要なケースが増えている。障害理解がなく夫からのDV被害や両親との関係の悪化による暴力など、中には虐待ケースとなったものもあり、今後益々増加傾向にあると思われる。他機関との連携や会議の開催など必要な支援を行っているが、緊急対応しなくてはいけないケースもあった。

<行政、他機関との連携>

これまで、福祉課やあんしん相談センターからの依頼が多かったが、健康推進課やこども発達支援センター、生活保護担当、精神科病院など相談依頼先が他機関に渡るようになってきている。チーム支援会議の参加や包括主催の勉強会やケア会議への参加を行い、他機関との連携を図っている。

<障害者自立支援協議会>

委託事業所として、コア会議、運営会議、全体会に参加。通所事業所連絡会の事務局機能も担っている。分野別連絡会として、相談支援事業所連絡会、こども連絡会、事業所連絡会（通所系、訪問系）があり、各連絡会で地域課題等を出し合い、課題に対してどのように取り組んでいくのかなど協議を行っている。事業所連絡会通所系では、主に障がい者の理解促進と就労環境の課題について話し合いを進めていた。訪問系では、訪問系従事者のスキルアップのため、精神障害者の関わり方について研修会を行っている。職員のスキルアップについては、各連絡会ともに課題が上がっており、能美市自立支援協議会全体での取り組みが必要なのではないかとという声もあがっていた。子ども連絡会では、医療的ケアを必要とする児童に関してや放課後等デイサービスの不足についてなどのそれぞれ地

域課題を出し合い、協議されていた。各連絡会であがった地域課題は、運営会議にて報告され検討課題の整理等を行っている。

(令和4年度に向けて)

基本方針

南加賀圏域の各市行政、社会福祉協議会、医療機関、福祉サービス事業所などと連携をとり、障がいのある方の安心で豊かな生活の支えとなることや、高齢化や親亡き後を見据えた柔軟で切れ目のないサポート体制などを関係機関等と協働しながら、社会福祉の課題に取り組み、地域福祉の向上を目指します。

重点実施事項

- ① 地域、行政、関係機関などと顔の見える関係性を構築し、連携の中で役割を補完し合いながら障がいのある方へのサポートを行い地域で安心して生活できるよう関わっていきます。
- ② 自立支援協議会や地域関係団体協議会、事例検討会等への参加を通して、地域社会資源の開発、人材育成に役立てることが出来るよう専門職として発揮活動します。
- ③ 家族全体がニーズを抱えているケースが増え、多様な連携やきめ細やかな関りが求められるので、長期的な視点で家族全体を関係者で支え一緒に考え一緒に次のステップへ進んでいけるよう支援に努めます。

(文責：堂前)

《生活介護事業、地域活動支援事業》 地域活動センターくろゆり

1 事業の概要

(1) 生活介護事業 (介護給付)

(目的) 日常生活をより豊かにするため、創作活動、余暇活動、生産活動の機会を提供し、必要に応じて、食事や入浴、服薬、排泄等の介助等支援を提供する。それぞれの希望をもとに個別支援計画を作成し、創意工夫をし、個別に支援を提供することを目的とする。

(定員) 20人

(利用料) 1日 (区分2) 552円 (区分3) 605円
(区分4) 675円 (区分5) 957円
(区分6) 1,269円

(利用期間) なし

(利用区分) 区分3以上、50歳以上の方については区分2以上

(2) 地域活動支援センターくろゆり (小松市、能美市、加賀市、川北町委託事業)

(目的) 創作活動、余暇活動、生産活動などを通じ、各個人がそれぞれの生活を豊かにし、生きがいや夢を持って生活できるように創意工夫し支援を提供すること。また、「気軽に立ち寄れる場所」としての機能を重視することを目的としている。

(定員) 10名

(利用料) 4時間以下 266円 4時間を超えて6時間以下 346円
6時間を超えた場合 405円

(利用期間) なし

(利用区分) なし

(3) サービス内容

- ・創作活動：アート、ハンドベル、調理、野菜作り etc.
- ・余暇利用：買い物、ゲーム、ドライブ、散歩 etc.
- ・生産活動：ねじの袋詰め、ハーネス袋詰め、館内消毒作業
- ・健康維持：運動、脳トレ
- ・地域活動：フードパントリー、町内ごみ拾い
- ・季節行事：初詣、花見、忘年会、年度末会 etc.
- ・各種相談：生活相談、金銭相談、制度相談、医療相談・同行 等
- ・その他：訪問、送迎サービス 昼食注文サービス

2 事業利用状況

(1) 登録者の状況

① 月別、事業利用別登録者数の動向

単位：人

| 利用月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 月平均 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|------|
| 生活介護 | 16 | 16 | 15 | 16 | 16 | 15 | 15 | 15 | 16 | 16 | 16 | 19 | 15.8 |
| 地域活動 | 16 | 19 | 18 | 20 | 20 | 22 | 23 | 24 | 22 | 22 | 23 | 23 | 20.8 |
| 計 | 32 | 35 | 33 | 36 | 36 | 37 | 38 | 39 | 38 | 38 | 39 | 42 | 36.6 |

② 市町村別事業利用別登録者数

単位：人

| 項目 | 小松市 | 能美市 | 加賀市 | 川北町 | 計 |
|------|-----|-----|-----|-----|----|
| 生活介護 | 13 | 5 | 0 | 1 | 19 |
| 地域活動 | 16 | 5 | 2 | 0 | 23 |
| 計 | 29 | 10 | 2 | 1 | 42 |

③ 年代別登録者数 (令和4年3月31日現在)

単位：人

| 年齢 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 男性 | 2 | 1 | 4 | 4 | 1 | 5 | 1 | 18 |
| 女性 | 0 | 3 | 1 | 6 | 5 | 8 | 1 | 24 |
| 計 | 2 | 4 | 5 | 10 | 6 | 13 | 2 | 42 |

④ 障害種別登録者数

単位：人

| 障害名 | 統合 | 気分 | 発達 | 身体 | 知的 | その他 |
|-----|----|----|----|----|----|-----|
| 男性 | 4 | 2 | 5 | 1 | 2 | 2 |
| 女性 | 13 | 9 | 1 | 3 | 0 | 0 |
| 計 | 17 | 11 | 6 | 4 | 2 | 2 |

フードパントリーやオフクロなど(参照35頁)新たに始めた土日の開所について各関係機関に定期的にチラシを配るなどして周知していただけるようにした。また利用者に対して可能な限り個別対応を行い、くろゆりを利用するその方なりの意味を持って頂けるように努力した。

様々な試みの成果が出ているのか、令和3年度は21人の方に見学に来ていただくことが出来た。地域活動支援センターで登録していただき、手厚い支援が必要と判断した5人の方には生活介護のサービスへと移行していただいた。

新規は、生活介護5人、地域活動支援センター11人(内4人はくろゆり生活介護へ移行)、終了者は、生活介護2人(B型つばさ1人、高齢者入所施設1人)、地活8人(自宅療養2人、他B型1人、4人くろゆり、その他1人)

(2) 利用人数の状況

単位：人

| 利用月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 開所日数(日) | 22 | 19 | 23 | 21 | 22 | 22 |
| 生活介護利用者数 | 169 | 143 | 169 | 153 | 160 | 159 |
| 地域活動利用者数 | 39 | 31 | 48 | 40 | 36 | 64 |
| 利用者数計 | 208 | 174 | 217 | 193 | 196 | 223 |
| 一日の平均利用者数 | 9.5 | 9.2 | 9.4 | 9.2 | 8.9 | 10.1 |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|------|------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 22 | 22 | 23 | 21 | 20 | 24 | 261 |
| 156 | 162 | 168 | 139 | 126 | 185 | 1,889 |
| 83 | 60 | 60 | 44 | 45 | 53 | 603 |
| 239 | 222 | 228 | 183 | 171 | 238 | 2,492 |
| 10.9 | 10.1 | 9.9 | 8.7 | 8.6 | 9.9 | 9.5 |

延べ利用者数が1年で約600人増え、平均稼働率は、生活介護37.6%、地域活動支援センター23.1%となっている。新規登録者の傾向として、以前は就労系に事業所に通っていたが何らかの理由で行けなくなった方や、発達障害に軽度の知的障害を併せ持った方が目立った。結果的に環境調整や個別対応が必要な利用者が増え、職員の創意工夫ならびに、利用者同士の助け合いの力を引き出す支援をしながら乗り切った。苦労は多かったが、職員、利用者共に力が付いたように感じる。

地域活動支援センターに登録はしたものの、利用がわずかである方がたくさんいるが、何らかのきっかけを見つけることでくろゆりを居場所として大切に思ってくれることも学んだ。今後も一人一人のアセスメントを大切に、関係を継続させつつ、小さなきっかけを拾い上げていきたい。(文責:松本)

3 事業活動内容

令和3年度もコロナ禍であり、多くの活動が制限される中、感染対策を行いながらできることを模索しチャレンジし続けた。

【新たな取り組み】

・フードパントリー（令和3年5月～）

毎月第1日曜日に小松こども食堂の協力のもと、フードロス食材を地域の方、障害をお持ちの方、こども食堂利用者に配布する活動。地域交流、フードロス削減活動、みんなで社会貢献活動を行うという、多くの意義のある活動。コロナ禍で中止にした月もあったが、ほぼ毎月開催することで利用者と地域住民との垣根がとて低くなり、利用者の自信にもつながった。北陸中日新聞と北國新聞の両紙に記事を掲載していただいた。

・土曜開所「オフクロ」（令和4年1月～）

毎月第3土曜日に、平日は就労等でくろゆりを利用できない方を対象に、居場所としても特色を活かした開所を行っている。昼食を100円で提供し、雑談や創作活動など、現在は職員との濃密なかかわりを持つ時間を提供している。普段のかかわりではすくい取れなかった利用者のストレングスをすくい取ることができ、その後の支援につながっている。

・月1町内清掃

令和2年度の途中から月1回行うようになっていた町内のゴミ拾いを、アピール度を高め、利用者たちの意識も高めるために、おそろいのユニフォームを着用して行うようになった。結果、町会からゴミ袋をいただいたり、直接感謝の言葉をいただけるようになった。

その他、日々の活動では、利用者と話し合い、試行錯誤を重ねた結果、午前中は毎日作業をし、午後から余暇的な活動を行うというプログラムが定着した。1日作業をすることは難しいが、毎日少しでも仕事ができる場に通うということが、通所の大きなモチベーションとなり、自信をつけることにつながっている。また、短時間利用の方には午前中にくろゆりに来れば作業ができる、というわかりやすさを提供することが出来た。作業をしたくない方には個別のプログラムを用意して対応している。（文責：松本）

（令和4年度に向けて）

今まで制限されてきた活動がWithコロナで再開されていく1年であると思われる。令和3年度の新たな取り組みのフードパントリーやオフクロの活動に、更なる広がりを持たせていきたい。また、就労系事業所に通えなくなった方等の、新たな生きがいの場として、くろゆりを選んでいただけるように創意工夫を凝らし、さらなる業績アップを目指したい。

基本方針

・体調や生活リズムを整え、安心して希望ある生活を送れるよう支援すると共に、地域共生社会の一端を担う事業所として地域交流、貢献に努めます。

重点実施事項

- ① 個々のニーズに沿ったサービスを提供できるようソフト・ハード面双方において工夫を凝らします。
- ② 利用者や地域の方々と共に共生社会実現の為、地域貢献活動を行っていきます。
- ③ 機関紙「くろゆりずむ」の発行やSNSでの発信、新聞などへの取材依頼等の広報活動により、障がいや福祉事業所の理解促進に努めます。

（文責：松本）



フードロス活動「パンの無料配布」



町内のごみ拾い

《地域交流推進事業》

(1) 地域交流センター及び地域交流室の活用

青葉会、くろゆり会、メンボラ TOMO の会の活動の拠点として各種行事や会議等で利用されております。その他にも、これまでに地域の福祉医療関係者もピア活動の場として使用する等、多目的に利用されておりましたが COVID-19 発生以後は利用件数、参加人数とも以前の半分程度の利用となっております。

令和3年度地域交流センター及び地域交流室利用の推移

単位：件

| 団体名 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 累計 |
|--------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 青葉会と利用者 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 1 | 2 | 1 | 5 | 1 | 3 | 2 | 19 |
| | 0 | 4 | 8 | 0 | 6 | 4 | 7 | 4 | 58 | 4 | 6 | 5 | 110 |
| くろゆり会 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 5 |
| | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 5 | 0 | 0 | 1 | 15 |
| メンボラ TOMO の会 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 4 | 5 | 6 | 3 | 5 | 7 | 38 |
| | 22 | 6 | 0 | 0 | 0 | 3 | 23 | 54 | 41 | 22 | 23 | 28 | 222 |
| その他 | 3 | 11 | 8 | 10 | 4 | 10 | 7 | 8 | 18 | 8 | 10 | 10 | 107 |
| | 13 | 55 | 34 | 21 | 15 | 37 | 17 | 20 | 67 | 21 | 32 | 49 | 381 |
| 計 | 8 | 15 | 10 | 10 | 6 | 12 | 13 | 15 | 31 | 12 | 19 | 20 | 164 |
| | 39 | 65 | 42 | 21 | 21 | 44 | 47 | 83 | 171 | 47 | 65 | 83 | 713 |

上段回数：行事及び会議の回数

下段：行事及び会議の参加者数

(2) その他の地域福祉関係者の活動内容

1) SUGAR JAPAN はピアカウンセリングを行うグループで、生活のことや仕事のこと、病
気、薬、老後のことなど幅広くみんなで話し合っている。参加メンバーには、当事者の方
を中心に、大学教員、福祉施設の職員、病院のナースに作業療法士、ボランティアの方と
幅広く参加している。当法人職員も平成 25 年から参加し、地域活動センターしらさぎに
て 2 ヶ月毎に集まっていたが、COVID-19 の影響で令和 3 年度は活動することが出来な
かった。

2) 「虐待防止委員会」取り組みに関すること

なごみの郷職員として権利擁護等の意識を高め、虐待防止につなげていくことを目的に、
年 3 回委員会を開催し防止に向けた取り組みを今年度も実施した。委員会や虐待マネー
ジャーを中心に、各職員に通報の流れや仕組みの認識と、現場の現状の把握、虐待防止に
向けた早期発見と迅速な対応を共有しました。また年度末には、県の虐待防止研修の復命
研修を法人内で実施し、虐待を起こさない職員としての責務や虐待を起こさないために
どのような取り組みが必要かを学び、意見交換し意識を高めた。

(文責：高田)

(3) ボランティアに関すること

令和 3 年度のメンボラ TOMO の会との交流活動は COVID-19 の影響で昨年同様、大き
な行事であるバスハイク、お茶会、春の日の食談会等が中止となり、学びの会(絵手紙、
しゃべろっさ)やほっとサロン等の毎月の訪問活動も中止となったが、状況をみながら
一部ふれあい活動を行った。

— 以下、令和 3 年度メンボラ友の会事業報告書からの抜粋 —

コロナ禍でのなごみの郷利用者との関り

| 内 容 | 参加者 |
|--|-----------------------------|
| なごみの郷の4つの事業所で利用者の皆さんと一緒に春に咲く花を植えた。 10月27日 はまかぜ、山口分場 10月28日 なごみの郷、くろゆり | 利用者多数 TOMOの会17名 |
| くろゆり学ぼうさ くろゆり利用者から要望が強く11月～12月の間で4回勉強会を実施し た。 | 利用者1名 TOMOの会1名 |
| 千支の型抜きアート展 12月1日 1回目13:00 2回目14:15 なごみの郷で2班に分けて人数を最小限にして実施した。 | 利用者1名 TOMOの会5名 職 員 1名 |
| 千支の型抜きアート展 12月22日 山口分場で実施した。 | 利用者6名 TOMOの会3名 |
| 味噌づくり TOMOの会役員会で相談して、味噌づくりの様子をくろゆりとオンライン でつなぎ配信しました。会員の人もメンバーさんの顔を見ることが出 来て嬉しかったとの事 | TOMOの会8名 |

第22回なごみ祭・第23回春の日の食談会中止

令和3年度は COVID-19 状況下での開催は中止となりました。



過去開催のなごみ祭、春の日の食談会の様子

Ⅲ 令和3年度の決算状況

1 資金収支計算書

第一号第一様式（第十七条第四項関係）

法人単位資金収支計算書

（自）令和3年4月1日 （至）令和4年3月31日

（単位：円）

| 勘定科目 | | 予算(A) | 決算(B) | 差異(A)-(B) | 備考 |
|---------------------------------|----------------|-------------|-------------|-------------|----|
| 事業活動による収支 | 収入 | | | | |
| | 就労支援事業収入 | 13,500,000 | 15,317,920 | △ 1,817,920 | |
| | 障害福祉サービス等事業収入 | 144,746,000 | 144,145,078 | 600,922 | |
| | 経常経費寄附金収入 | 610,000 | 610,000 | 0 | |
| | 受取利息配当金収入 | 1,000 | 500 | 500 | |
| | その他の収入 | 890,000 | 848,663 | 41,337 | |
| | 事業活動収入計（1） | 159,747,000 | 160,922,161 | △ 1,175,161 | |
| | 支出 | | | | |
| | 人件費支出 | 110,468,000 | 107,569,084 | 2,898,916 | |
| | 事業費支出 | 12,233,000 | 11,030,471 | 1,202,529 | |
| 事務費支出 | 20,576,000 | 17,751,492 | 2,824,508 | | |
| 就労支援事業支出 | 13,500,000 | 15,488,535 | △ 1,988,535 | | |
| 支払利息支出 | 2,000 | 178 | 1,822 | | |
| 事業活動支出計（2） | 156,779,000 | 151,839,760 | 4,939,240 | | |
| 事業活動資金収支差額（3）=（1）-（2） | 2,968,000 | 9,082,401 | △ 6,114,401 | | |
| 施設整備等による収支 | 収入 | | | | |
| | 施設整備等補助金収入 | | 0 | 0 | |
| | その他の施設整備等による収入 | 56,000 | 56,000 | 0 | |
| | 施設整備等収入計（4） | 56,000 | 56,000 | 0 | |
| | 支出 | | | | |
| | 設備資金借入金元金償還支出 | 3,550,000 | 3,550,000 | 0 | |
| 固定資産取得支出 | 2,370,000 | 1,941,500 | 428,500 | | |
| その他の施設整備等による支出 | | 0 | 0 | | |
| 施設整備等支出計（5） | 5,920,000 | 5,491,500 | 428,500 | | |
| 施設整備等資金収支差額（6）=（4）-（5） | △ 5,864,000 | △ 5,435,500 | △ 428,500 | | |
| その他の活動による収支 | 収入 | | | | |
| | その他の活動による収入 | | 0 | 0 | |
| | その他の活動収入計（7） | 0 | 0 | 0 | |
| | 支出 | | | | |
| | 積立資産支出 | 2,977,000 | 2,976,087 | 913 | |
| | その他の活動による支出 | 50,000 | 0 | 50,000 | |
| その他の活動支出計（8） | 3,027,000 | 2,976,087 | 50,913 | | |
| その他の活動資金収支差額（9）=（7）-（8） | △ 3,027,000 | △ 2,976,087 | △ 50,913 | | |
| 予備費支出（10） | | | 0 | | |
| 当期資金収支差額合計（11）=（3）+（6）+（9）-（10） | △ 5,923,000 | 670,814 | △ 6,593,814 | | |
| 前期末支払資金残高（12） | 69,778,525 | 69,778,525 | 0 | | |
| 当期末支払資金残高（11）+（12） | 63,855,525 | 70,449,339 | △ 6,593,814 | | |

2 事業活動計算書

第二号第一様式（第二十三条第四項関係）
法人単位事業活動計算書

（自）令和3年4月1日 （至）令和4年3月31日

（単位：円）

| 勘定科目 | | 当年度決算(A) | 前年度決算(B) | 増減(A)-(B) |
|----------------------------|--|-------------|-------------|-------------|
| サービス活動増減の部 | 収益 | | | |
| | 就労支援事業収益 | 15,317,920 | 14,676,166 | 641,754 |
| | 障害福祉サービス等事業収益 | 144,145,078 | 136,913,263 | 7,231,815 |
| | 経常経費寄附金収益 | 610,000 | 323,000 | 287,000 |
| | サービス活動収益計(1) | 160,072,998 | 151,912,429 | 8,160,569 |
| | 費用 | | | |
| | 人件費 | 107,997,584 | 109,184,833 | △ 1,187,249 |
| | 事業費 | 11,030,471 | 10,929,280 | 101,191 |
| | 事務費 | 17,751,492 | 19,933,350 | △ 2,181,858 |
| | 就労支援事業費用 | 15,742,349 | 14,014,349 | 1,728,000 |
| 減価償却費 | 11,827,787 | 13,765,424 | △ 1,937,637 | |
| 国庫補助金等特別積立金取崩額 | △ 5,991,163 | △ 6,220,818 | 229,655 | |
| サービス活動費用計(2) | 158,358,520 | 161,606,418 | △ 3,247,898 | |
| サービス活動増減差額(3) = (1) - (2) | 1,714,478 | △ 9,693,989 | 11,408,467 | |
| サービス活動外増減の部 | 収益 | | | |
| | 受取利息配当金収益 | 500 | 827 | △ 327 |
| | その他のサービス活動外収益 | 848,663 | 766,500 | 82,163 |
| | サービス活動外収益計(4) | 849,163 | 767,327 | 81,836 |
| | 費用 | | | |
| | 支払利息 | 178 | 10,324 | △ 10,146 |
| サービス活動外費用計(5) | 178 | 10,324 | △ 10,146 | |
| サービス活動外増減差額(6) = (4) - (5) | 848,985 | 757,003 | 91,982 | |
| 経常増減差額(7) = (3) + (6) | 2,563,463 | △ 8,936,986 | 11,500,449 | |
| 特別増減の部 | 収益 | | | |
| | 施設整備等補助金収益 | 0 | 2,242,000 | △ 2,242,000 |
| | その他の特別収益 | 587,718 | 0 | 587,718 |
| | 特別収益計(8) | 587,718 | 2,242,000 | △ 1,654,282 |
| | 費用 | | | |
| | 固定資産売却損・処分損 | 7 | 242,271 | △ 242,264 |
| 国庫補助金等特別積立金積立額 | 0 | 2,242,000 | △ 2,242,000 | |
| その他の特別損失 | 587,718 | 0 | 587,718 | |
| 特別費用計(9) | 587,725 | 2,484,271 | △ 1,896,546 | |
| 特別増減差額(10) = (8) - (9) | △ 7 | △ 242,271 | 242,264 | |
| 当期活動増減差額(11) = (7) + (10) | 2,563,456 | △ 9,179,257 | 11,742,713 | |
| 繰越活動増減差額の部 | 前期繰越活動増減差額(12) | 102,412,237 | 111,591,494 | △ 9,179,257 |
| | 当期末繰越活動増減差額(13) = (11) + (12) | 104,975,693 | 102,412,237 | 2,563,456 |
| | 基本金取崩額(14) | 0 | 0 | 0 |
| | その他の積立金取崩額(15) | 0 | 0 | 0 |
| | その他の積立金積立額(16) | 2,976,087 | 0 | 2,976,087 |
| | 次期繰越活動増減差額(17) = (13) + (14) + (15) - (16) | 101,999,606 | 102,412,237 | △ 412,631 |

3 貸借対照表

第三号第一様式（第二十七条第四項関係）

法人単位貸借対照表

令和4年3月31日現在

(単位：円)

| 資産の部 | | | | 負債の部 | | | |
|----------|-------------|-------------|-------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|
| | 当年度末 | 前年度末 | 増減 | | 当年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 流動資産 | 74,163,580 | 72,663,883 | 1,499,697 | 流動負債 | 10,493,296 | 9,132,099 | 1,361,197 |
| 現金預金 | 46,603,070 | 47,075,181 | △ 472,111 | 事業未払金 | 3,203,163 | 2,211,717 | 991,446 |
| 事業未収金 | 25,049,729 | 22,878,028 | 2,171,701 | 1年以内返済予定設備資金借入金 | 3,400,000 | 3,550,000 | △ 150,000 |
| 未収補助金 | 978,848 | 960,263 | 18,585 | 預り金 | 200,633 | 109,382 | 91,251 |
| 商品・製品 | 34,150 | 70,520 | △ 36,370 | 職員預り金 | | | 0 |
| 仕掛品 | 54,428 | 44,506 | 9,922 | 仮受金 | | | 0 |
| 原材料 | 221,867 | 449,233 | △ 227,366 | 賞与引当金 | 3,689,500 | 3,261,000 | 428,500 |
| 立替金 | 0 | 1,564 | △ 1,564 | その他の流動負債 | | | 0 |
| 前払金 | 154,000 | | 154,000 | | | | |
| 前払費用 | 1,067,488 | 1,184,588 | △ 117,100 | | | | |
| 固定資産 | 73,422,752 | 80,332,959 | △ 6,910,207 | 固定負債 | 9,436,000 | 12,780,000 | △ 3,344,000 |
| 基本財産 | 32,762,809 | 39,015,347 | △ 6,252,538 | 設備資金借入金 | 8,600,000 | 12,000,000 | △ 3,400,000 |
| 土地 | | | 0 | 長期預り金 | 836,000 | 780,000 | 56,000 |
| 建物 | 31,762,809 | 38,015,347 | △ 6,252,538 | 負債の部合計 | 19,929,296 | 21,912,099 | △ 1,982,803 |
| 定期預金 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 純資産の部 | | | |
| その他の固定資産 | 40,659,943 | 41,317,612 | △ 657,669 | 基本金 | 11,546,875 | 11,546,875 | 0 |
| 土地 | 8,798,375 | 8,798,375 | 0 | 国庫補助金等特別積立金 | 9,008,506 | 14,999,669 | △ 5,991,163 |
| 建物 | 19,166,875 | 21,357,155 | △ 2,190,280 | その他の積立金 | 5,102,049 | 2,125,962 | 2,976,087 |
| 構築物 | 1,625,389 | 1,901,579 | △ 276,190 | 修繕積立金 | 5,102,049 | 2,125,962 | 2,976,087 |
| 機械及び装置 | 2,586,430 | 3,273,896 | △ 687,466 | 次期繰越活動増減差額 | 101,999,606 | 102,412,237 | △ 412,631 |
| 車輛運搬具 | 1,848,014 | 2,889,214 | △ 1,041,200 | (うち当期活動増減差額) | 2,563,456 | △ 9,179,257 | 11,742,713 |
| 器具及び備品 | 1,368,311 | 806,931 | 561,380 | | | | |
| 権利 | 164,500 | 164,500 | 0 | | | | |
| 修繕積立資産 | 5,102,049 | 2,125,962 | 2,976,087 | | | | |
| その他の固定資産 | | | 0 | 純資産の部合計 | 127,657,036 | 131,084,743 | △ 3,427,707 |
| 資産の部合計 | 147,586,332 | 152,996,842 | △ 5,410,510 | 負債及び純資産の部合計 | 147,586,332 | 152,996,842 | △ 5,410,510 |

IV その他

1 法人内全体研修

| 月 | 日 | 対象 | 研修名 |
|----|----|------|--------|
| 5 | 28 | 新人職員 | 新人職員研修 |
| 12 | 16 | 全職員 | 研修報告会 |

法人では、専門職としての基盤などより深い理解や組織人としての業務遂行スキル、そして支援の科学的な裏付けと人材育成が求められ、日々、OJTやOFF-JTにより体系的に育成研修を進めている。今年度も新卒はいなかったが、対象者への新人研修を行い、精神障害への理解や住民参加型の所以等を学ぶ機会とした。事例を用いた研修報告会では、支援における価値や倫理をグループワークを通して深めた。虐待研修では、虐待に陥る背景や環境を考える視点など人権を全員が意識する機会を設けている。次年度も必要な研修ニーズを踏まえ体系的に実施し、職員が主体的に考えていく研修を進める。(文責：中村)

2 研修・各種団体会議への出席（令和3年4月～令和4年3月）

| 月 | 日 | 研修・会議名 | 主催 | 出席数 |
|---|--------------|--|------------------|-----|
| 5 | 21～30 内1日 | 相談支援従事者現任研修 (5/31、6/29、7/29 3日間オンライン) | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 2 |
| 6 | 2・9 | 障害施設初任者研修 (2日間オンライン) | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 3 |
| | 11 | 障害支援区分認定にかかる 認定調査員研修 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 1 |
| | 17・25 | 障害施設中堅職員研修 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 1 |
| | 28～11/19 | 発達障害者等相談支援従事者 育成研修（上級）合計10日間研修 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 1 |
| | 30 | 高齢者施設等感染症対応力 強化研修 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 2 |
| 7 | 5.14 | 障害施設リーダー研修 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 1 |
| | 12・13 (19) | 石川県強度行動障害支援者 養成研修（基礎研修） | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 4 |
| | 22 | 石川県発達障害支援センター 関係機関研修会 | 石川県発達障害支援センター | 1 |
| | 29 | 社会福祉法人経営講座Ⅳ | 石川県社会福祉法人経営者協議会 | 1 |
| 8 | 20 10/15 | 発達障害者等相談支援従事者育成研修 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 2 |
| | 18・19 | 福祉職員キャリアパス対応 生涯研修過程の中堅職員研修 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 1 |
| | 24 | サービス管理責任者等更新研修 (オンライン) | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 1 |
| 9 | 9～10 | 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員研修（オンライン） | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 2 |

| | | | | |
|----------|----------|--------------------------------------|------------------|---|
| 9 10 | 9～10 | 強度行動障害支援者養成実践研修 (オンライン) | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 2 |
| | 14～12/16 | 石川県相談支援従事者初任者研修 (オンライン・演習 計7日間) | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 1 |
| | 11 | アングーマネジメント研修 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 1 |
| 11 | 2 | 食品衛生責任者研修 | 小松能美食品衛生協会 | 2 |
| 11 12 | 12～1/14 | ひきこもり相談・支援者研修会 | 石川県こころの健康センター | 3 |
| | 22 | 石川県障害者虐待防止・権利擁護研修 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 1 |
| 12 | 8 | コミュニケーション技法実践研修 ～アサーティブコミュニケーション～ | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 1 |
| 12 1 | 17～19 | 就労支援フォーラム NIPPON 2021 | 就労支援フォーラム NIPPON | 1 |
| | 21 | 福祉職場の接遇リーダー養成研修 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 2 |
| 2 | 17～18 | 石川県サービス管理責任者等実践研修 | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会 | 1 |
| 3 | 2 | 管内栄養士研修会 | 石川県南加賀保健福祉センター | 1 |

3 関連団体への参加

令和4年4月1日現在

| 氏名 | 関係団体 | 職名 |
|---------|--|--|
| 荒田理事長 | 能美市自立支援協議会 認定NPO法人えんがわ 社会福祉法人能美市社会福祉協議会 | 委員 理事 監事 |
| 高田支援部長 | 小松市社会福祉協議会 第三次能美市地域福祉活動計画評価委員会 のみ社会福祉法人連絡会 ・研修専門委員会 | 評議員 委員 幹事 委員 |
| 瀬戸支援部次長 | 小松市障害者自立支援協議会 ・精神障がい者等地域生活支援研究会 | 委員 |
| 堂前支援部次長 | 能美市障害者自立支援協議会 ・コア会議 ・運営委員会 ・相談支援事業所連絡会 相談支援専門員協会 研修企画 日本精神保健福祉士協会石川県支部 相談支援従事者研修初任者研修 相談支援従事者研修主任者研修 ペアレントメンター養成講座 | 委員 委員 委員 委員 災害対策委員 企画委員 担当 インストラクター |
| 中村支援部次長 | のみ社会福祉法人連絡会 ・ふれあい弁当にかかる専門委員会 | 委員 |
| 金谷 葉月 | 南加賀就労支援強化連絡会 ネットワーク推進委員会 | 委員 |
| 北島 千裕 | 小松市障害者自立支援協議会 テーマ別検討会 | 委員 |

| | | |
|--------|---|-----------------------|
| 西東 健太 | 南加賀就労支援強化連絡会 クローバー制作委員会 | 委員 |
| 宇野 結貴 | 小松市障害者自立支援協議会 ・精神障がい者等地域生活支援研究会 ・相談支援事業所連絡会 石川県精神保健福祉士会 教育・研修部 | 委員 委員 委員 |
| 江端 安代 | 南加賀就労支援強化連絡会 クローバー制作委員会 | 委員 |
| 南出 真里江 | 能美市障害者自立支援協議会事業所連絡会 | 委員 |
| 土山 信英 | 能美市障害者自立支援協議会 ・運営委員会 ・相談支援事業所連絡会 ・事業所連絡会 こころに寄り添いあう人づくり委員会 | 委員 委員 事務局 委員 |
| 中西 雅恵 | 小松市自立支援協議会 ・テーマ別検討会 ・相談事業所連絡会 | 委員 委員 |

4 令和3年度こまつ大学実習概要

和3年度、公立小松大学の精神保健看護実習の受け入れを行いました。「看護ケアを提供する対象者に対して、人権や権利を尊重した倫理的な態度で、また、病気や障がいに由来する対象者への否定的なイメージをもたずに、対象者を全人間的に理解するために必要なコミュニケーション能力を高める」ことを目的に学生50人が3Gに分かれて、実習を行いました。今年度も、COVID-19の影響の為、オンラインでの実習を行いました。今年度初の試みとして、各事業所内の様子を撮影し、動画を視聴して頂くことができ、なごみの郷の雰囲気を感じ取って頂くことができました。そして、昨年度に引き続き、学生が2日間に渡り、就労支援センターつばさ、能美地域活動センターはまかぜ、地域活動センターくろゆりの通所事業所を利用している利用者とグループホームなごみに住んでいる利用者計9人と画面を通してインタビューを行い、コミュニケーションを図りました。2日間に渡り、インタビューを行ったことで、1日目よりもお互いに緊張がほぐれ、会話の幅が広がりを見せていました。会話は一方的ではなく、時には学生自身の話も交えながら、お互いにしてみたいことや夢などを語り合い、応援しあう様子が印象的でした。インタビューに参加した利用者も学生と話せて楽しかった、良かったと話しており、交流を深めて頂けたと思います。実際に話をする中で、学生が持っていた障がいを持つ方への印象に変化があり、地域住民として生活する当事者の方への理解を深めて頂きました。

オンライン実習は、昨年度に引き続き、2回目となりましたが、臨地実習よりも限られた時間での関わりだったからこそ、利用者の言葉1つ1つをより大切に受け止めて頂き、その言葉の真意にも思いを馳せて頂きながら、当事者の方への理解を深めて頂くことができ、濃くて有意義な時間を利用者、学生共に過ごして頂いた実習となりました。

(文責：海老原)

5 なごみの郷苦情解決第三者委員

令和3年度活動報告

| 月 | 訪問先 | 訪問内容 | 相談形式と人数 | | 苦情BOX 電話等 | 計 |
|------------------------|------|------------|---------|---|--------------|---|
| 4 | くろゆり | 通常訪問 | グループ相談 | 7 | | 7 |
| 5 | はまかぜ | 通常訪問 | グループ相談 | 4 | | 4 |
| 6 | なごみ | 通常訪問 | 個別相談 | 7 | | 7 |
| 7 | 山口分場 | 通常訪問 | グループ相談 | 3 | 苦情㊦1 | 4 |
| 8 | くろゆり | 通常訪問 | グループ相談 | 7 | | 7 |
| 9 | はまかぜ | 通常訪問 | グループ相談 | 6 | | 6 |
| 10 | なごみ | 通常訪問 | 個別相談 | 5 | 苦情㊦1 電話1 | 7 |
| 11 | 山口分場 | 通常訪問 | グループ相談 | 3 | | 3 |
| 12 | くろゆり | 通常訪問 | グループ相談 | 6 | | 6 |
| 1 | はまかぜ | 通常訪問 | グループ相談 | 6 | | 6 |
| 2 | 訪問なし | COVID-19の為 | — | | 苦情㊦1 | 1 |
| 3 | 山口分場 | 通常訪問 | グループ相談 | 2 | | 2 |
| 相談人数総計 60人 (内苦情㊦3、電話1) | | | | | | |

■今年度の活動と次年度の展望

- ・平成17年(2005年)以来、今年度で17年目の活動となった。
- ・苦情解決第三者委員である井村千里、北岡和代の2人で活動を行った。
- ・山口分場、はまかぜ、なごみ、くろゆりへの定期訪問活動を行った。
- ・山口分場は希望者のみが集まったのグループ相談、くろゆりはプログラムに組み込まれた活動、なごみはメンバーによる任意に応じる形式で行った。
- ・COVID-19による影響を受けて、訪問をキャンセルが1回のみあったが、大きな影響はなかった。
- ・苦情相談BOX等に関する取扱いの変更がなされ、BOXは事業所管理へ移行することとなった。
- ・次年度も同様の活動を継続し、施設が提供するサービスの向上・充実に貢献していく。

(文責：苦情解決第三者委員 北岡)